



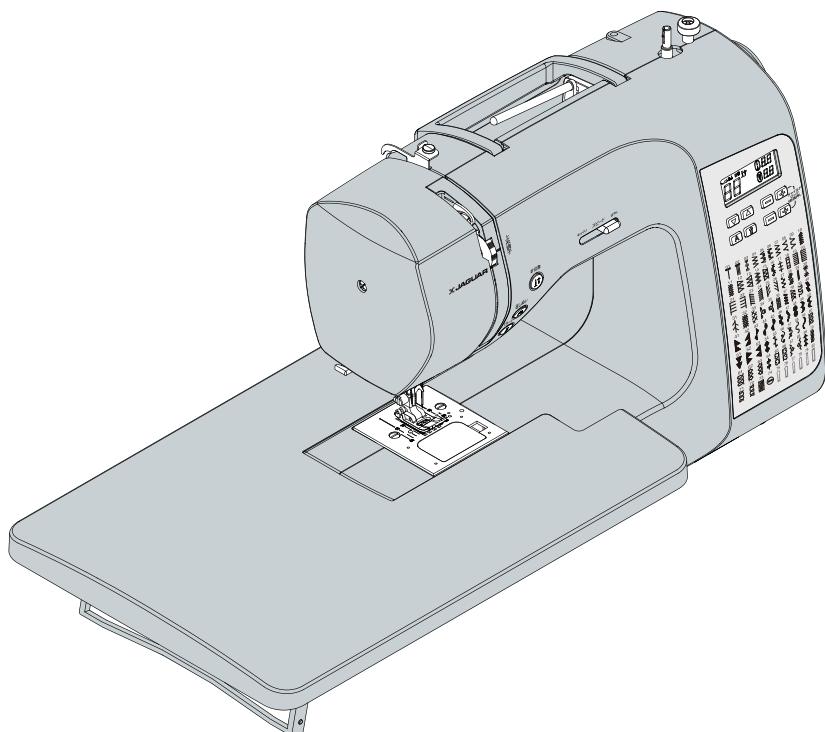
家庭用

日本国内専用
Use only in Japan

コンピューターミシン KJM-3301

取扱説明書 (保証書付)

ご使用前に必ずお読みください。



このたびは、ジャガーコンピューターミシンをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

ご使用前に、必ずこの「取扱説明書」をよくお読みになり、正しくご使用ください。

なお、この取扱説明書には保証書が付いています。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる場所に大切に保管してください。

●ご使用の前に「安全上のご注意」を必ずお読みください。

小泉成器株式会社

安全上のご注意

- ※ ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ※ ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の人への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

⚠ 警告

誤った取り扱いをしたときに、死亡または重傷を負う可能性があるもの

⚠ 注意

誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負ったり、物的損害の可能性があるもの

絵表示の例



○記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

※ お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる場所に必ず保管してください。

安全上のご注意

!**警告**

 <p>禁 止</p> <p>AC 100V 以外の電圧や地域では使用しない。(日本国内専用) 火災・感電の原因となります。</p>	 <p>ぬれ手禁止</p> <p>ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。 感電やけがの原因となります。</p>
 <p>プラグを抜く</p> <p>次のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから引き抜く。 電源プラグを差し込んだままにしておくと、思わぬ火災や感電の原因となることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用しないとき ・ミシンのお手入れをするとき ・ミシンを移動させるとき ・ミシンを使用中に停電したとき 	 <p>水ぬれ禁止</p> <p>ミシン、電源コード、電源プラグなどを水につけたりぬらしたりしない。ぬれた布やぞうきんでミシンを拭かない。スプレー状のクリーナーなどをミシンに直接噴霧しない。浴室や加湿器のそばなど水がかかるような場所や湿気の多い場所での使用や保管はしない。 火災・感電の原因となりますので、万一ぬれた場合は絶対に使用しないでください。</p>
 <p>プラグを抜く</p> <p>電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜く。 コードを引っ張ると内部で断線し、感電や発火につながる恐れがありますので大変危険です。</p>	 <p>禁 止</p> <p>電源コードは無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、何かに巻き付けたりしない。また、電源コードを重い物の下敷きにしない。 電源コードが内部で断線したり破損して、火災・感電の原因となります。</p>
 <p>禁 止</p> <p>ミシンの内部に金属類や燃えやすい物などの異物や水分を差し込んだり、落とし込んだりしない。 火災・感電の原因となりますので、特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。</p>	 <p>分解禁止</p> <p>改造はしない。修理技術者以外の人は、分解したり修理をしない。 火災・感電・けがの原因となります。 修理はお買い上げの販売店または小泉成器株式会社「修理センター」にご相談ください。</p>
 <p>禁 止</p> <p>ミシンを極端に傾けたり、前後左右に激しく動かさない。 感電や故障の原因となります。</p>	 <p>禁 止</p> <p>ミシンの上に乗らない。 倒れたりこわれたりしてけがの原因となることがあります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。</p>
 <p>禁 止</p> <p>ミシンをぐらついた台の上や傾いた場所などの不安定な場所に置かない。また、毛布やクッションなどのやわらかい物の上にも置かない。 落ちたり倒れたりして、けがや火災の原因となります。</p>	 <p>禁 止</p> <p>ほこりの多い場所で使用しない。電源プラグの刃や刃の取付面にほこりが付いているときは、乾いた布で拭き取る。 そのまま差し込むと火災の原因となります。</p>
 <p>禁 止</p> <p>ミシンの通風孔をふさがない。 内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。</p>	 <p>注 意</p> <p>ミシンを操作中にネクタイ・ネックレス・髪などを針周辺に引き込まれないようにする。 万一引き込まれてしまった場合は、直ちに電源を切って取り除いてください。</p>
 <p>禁 止</p> <p>雷が鳴り出したら、電源プラグには触れない。 感電の原因となります。</p>	 <p>禁 止</p> <p>子供の手の届く場所で使用したり放置しない。 けが・感電の恐れがあります。</p>
 <p>禁 止</p> <p>安全に責任を負う人の監視または指示がない限り、補助を必要とする人や子供だけで使用させない。 けが・感電の恐れがあります。</p>	

安全上のご注意

⚠ 注意

次のようなときは電源スイッチを「OFF」にする。

- ・針を交換するとき
- ・上糸、下糸をセットするとき
- ・送り歯とかまの掃除をするとき

ミシンを動かすときは、かまカバーを閉じる。

ミシンに以下の異常があるときはすみやかに使用を停止し、お買い求めの販売店または販売元で点検・修理・調整をお受けください。

- ・正常に作動しないとき
- ・水にぬれたとき
- ・落下などにより破損したとき
- ・電源コード、プラグ類が破損、劣化したり、異常に熱くなったりとき
- ・異常な音やにおいがするとき

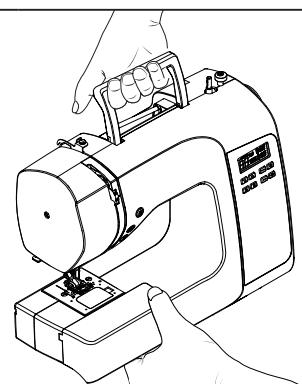
針および針止めネジの下に指をいれない。けがをする恐れがあります。

ミシンの使用中に、電子レンジや掃除機などの高容量の電気製品は使用しない。ミシンの動作が不正確になる場合があります。

業務用として使用しない。また、不特定多数の人が使用する場所に置かない。連続過負荷による故障の恐れがあります。

直射日光の当たる場所や、ストーブ、アイロンのそばなど温度の高い場所では使用しない。ミシンの使用温度は5～40°Cです。ミシン内部の温度が上がったり、本体や電源コードが損傷し火災・感電の原因となります。

ミシンを移動するときは、図の様に両手で持つ。

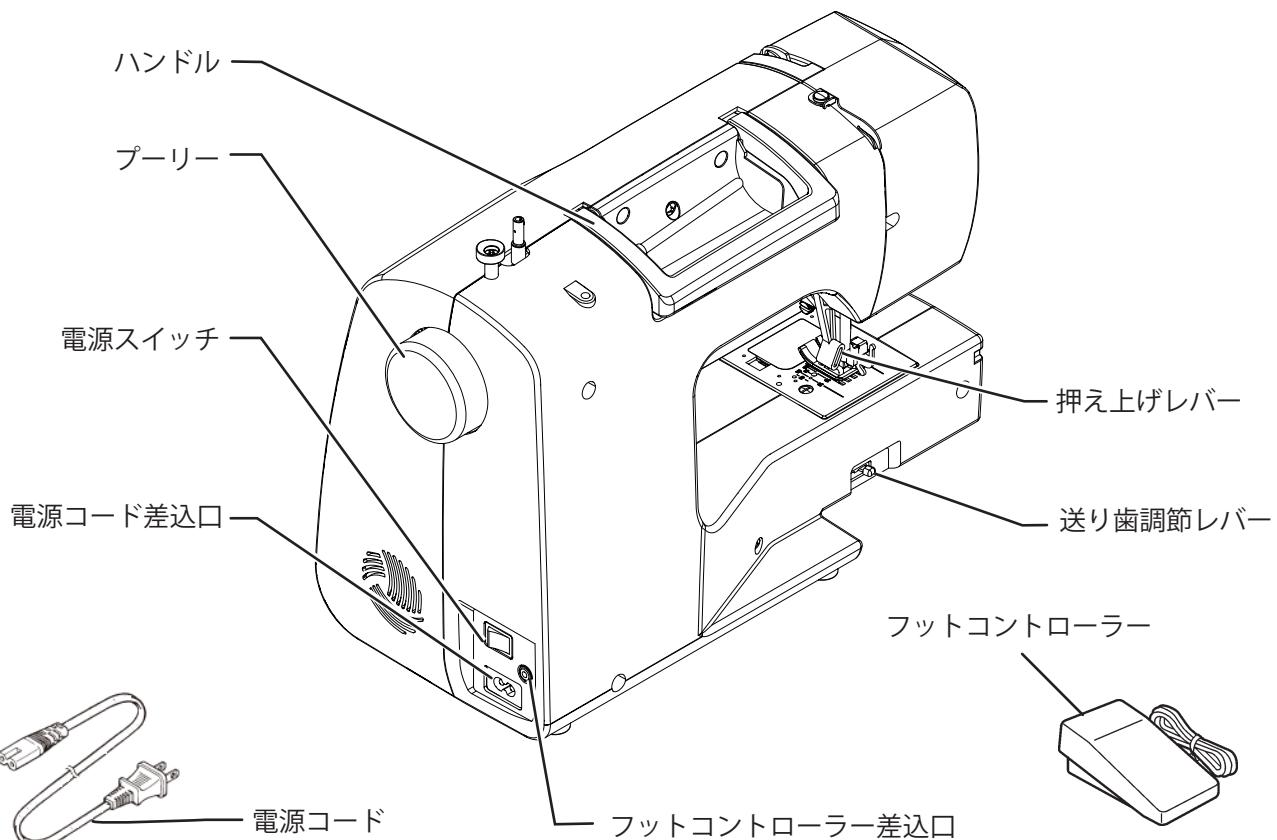
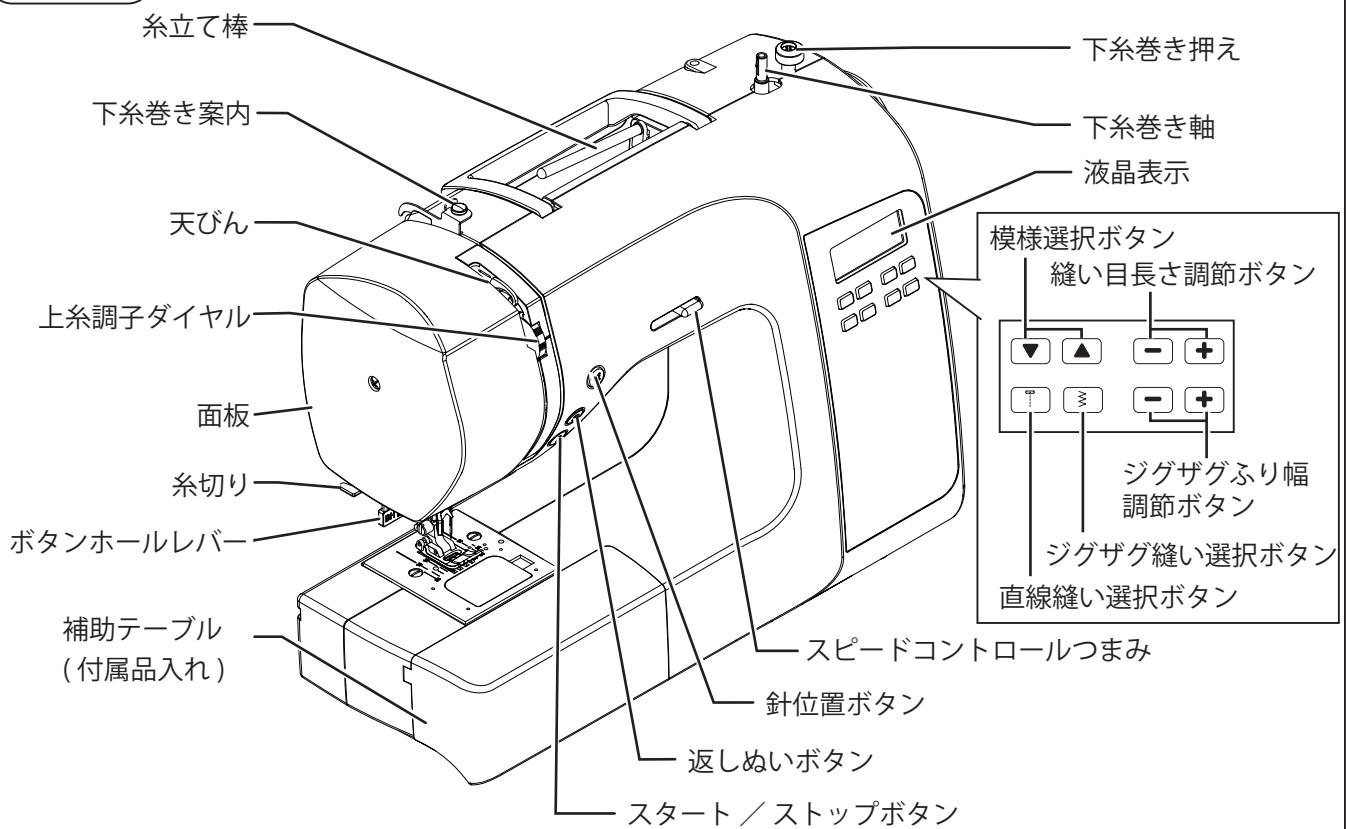


もくじ

安全上のご注意	1～3	縫いにくい布地の縫いかた	27
もくじ	4	直線縫い	28
各部のなまえ	5～7	ファスナー付け	29
付属品	7	パイピング	29
ご使用になる前に	8～23	点線キルト縫い	29
電源のつなぎかた	8	ジグザグ縫い	30
糸コマのセット	9	裁ち目かがり	30
押え上げ	9	サテンステッチ（密着縫い）	31
送り歯調節レバー	10	ふり幅の変化	31
フリーアーム（筒縫い）	10	かくし縫い	32
大型テーブルの使いかた	11	点線ジグザグ縫い	32
下糸の巻きかた	12	つくろい縫い	32
ボビンのセット	13	スーパー縫い（ストレッチステッチ）	33～35
上糸のかけかた	14	直線伸縮縫い／スマッキング縫い／フェザーフィー	
上糸かけのヒント	14	ジグザグ伸縮縫い／ダブルオーバーロック縫い／	
自動糸通し器の使いかた	15	つる草縫い／ウィッシュボーン縫い／	
下糸の引き上げかた	16	パインリーフ縫い／ブランケット縫い／	
針と糸と布の使いかた	17	はぎ合わせ縫い／ボックス縫い／かぎ縫い／	
針の取りかえかた	17	伸縮縫い	
針が曲がっていないかチェックする	18	飾り縫い	36
上糸調子のとりかた	18	ボタン付け	37
押えの取りかえかた	19	ボタンホール（ボタン穴かがり）	38
操作ボタン	20	ボタンホール押えの使いかた	38
スタート／ストップボタン	20	縫い始めのセット・縫いかた	38～39
針位置ボタン	20	お手入れのしかた	40
返しぬいボタン	20	送り歯とかまの掃除	40
スピードコントロールつまみ	20	保管のしかた	41
操作パネルの機能	21～23	故障かな？と思ったら	41～42
模様選択ボタン／縫い模様の選択	21	仕様	44
押え表示と使用する押え	22	アフターサービスについて	45
縫い目長さ調節ボタン／		お客様の個人情報のお取り扱いについて	45
ジグザグふり幅調節ボタン	23	保証・無料修理規定	46
チャイルドロック設定／解除	23	保証書	47
液晶表示のエラー表示	23	お客様相談窓口	47
正しい使いかた	24～39		
縫い目長さと縫い目幅早見表	24～26		

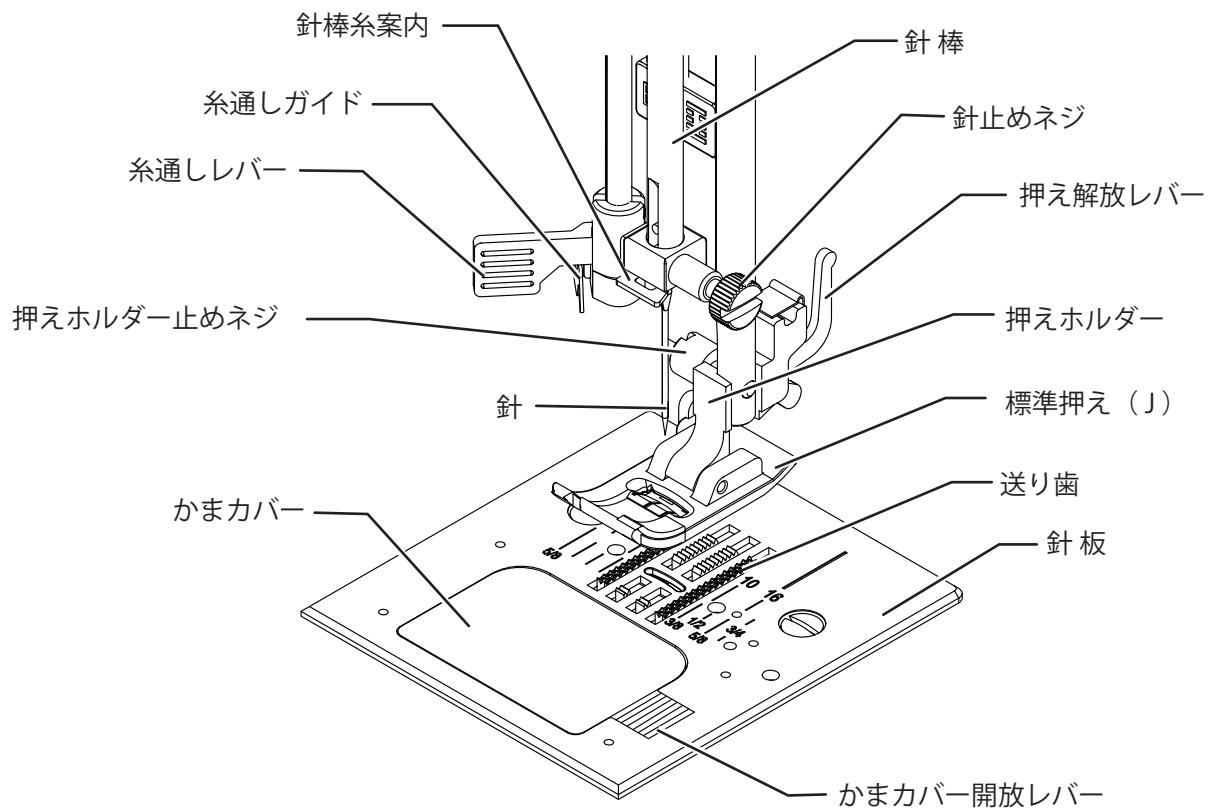
各部のなまえ

本体



各部のなまえ

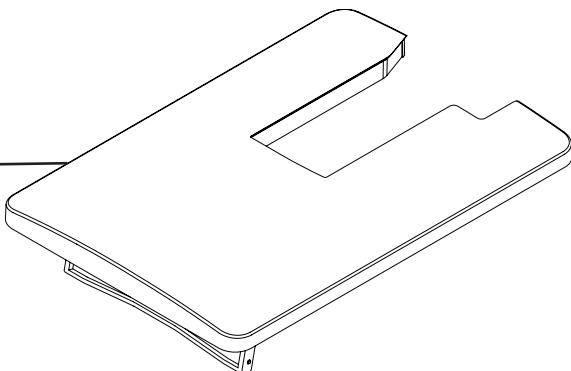
針まわり



ミシンカバー

JAGUAR.

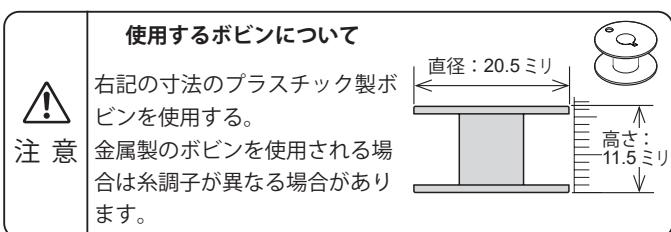
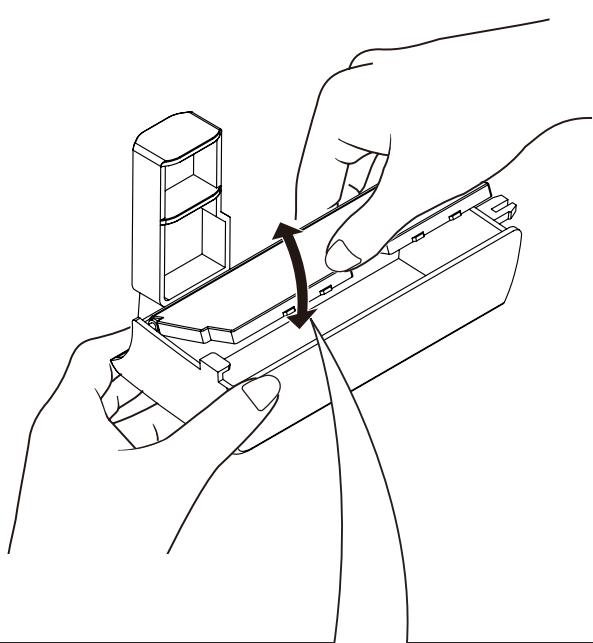
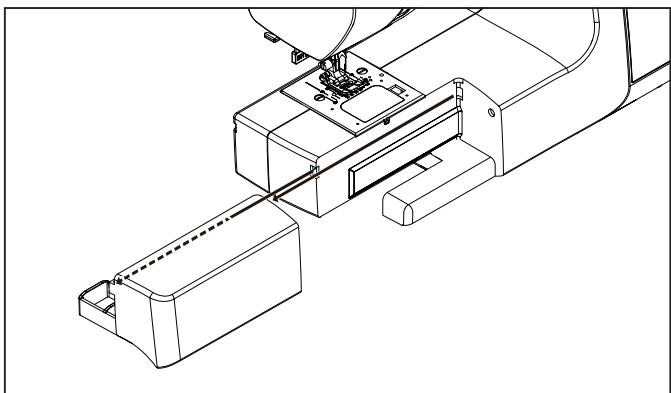
大型テーブル



各部のなまえ

付属品

- 図のように付属品入れを左に引き出し、ふたを開けると付属品が入っています。



ご使用になる前に

⚠ 注意

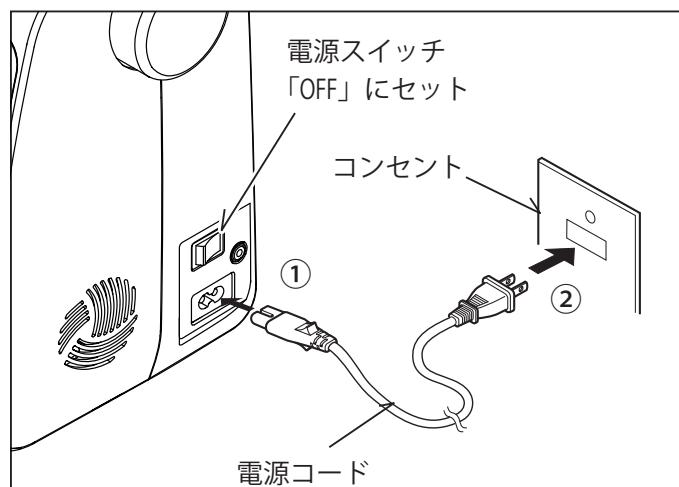
- 最初にミシンを使用するときは、押えの下に布切れを置いて、糸を使用しないでミシンを操作し、十分に油気を取り除いてください。
- ほこりや油などで縫う布を汚さないように、使用前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対使用しないでください。

電源のつなぎかた

フットコントローラーを使用しない場合

- 本体の電源スイッチを「OFF」にしてください。
- 電源コードのプラグを①、②の順に差し込みます。

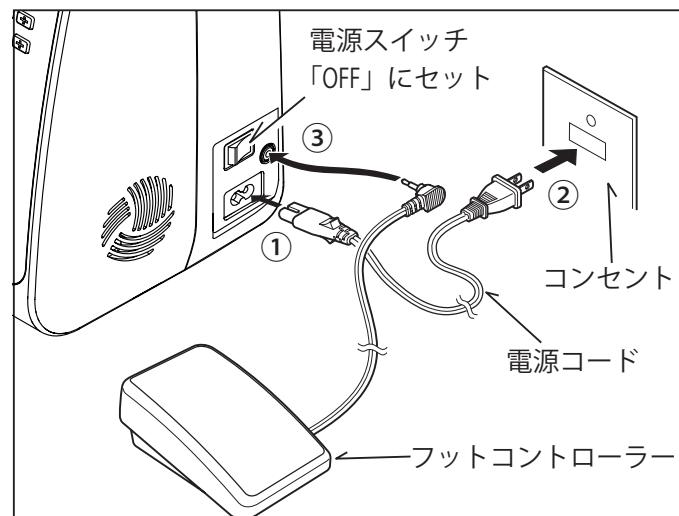
フットコントローラーを使用しない場合



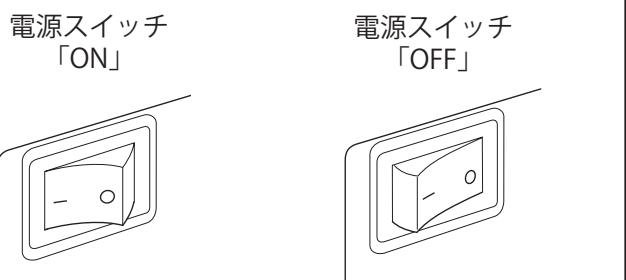
フットコントローラーを使用する場合

- 本体の電源スイッチを「OFF」にしてください。
- 電源コードのプラグを①、②の順に差し込みます。
- フットコントローラーのピン③を本体のフットコントローラー差込口に差し込みます。このとき、必ず一番奥まで確実に差し込んでください。
- 本体の電源スイッチを「ON」にしてフットコントローラーを深く踏むと、ミシンの回転は速くなります。最初は軽く踏んでゆるい速度で縫い始めてください。
お知らせ：
 - フットコントローラー使用時はスピードコントロールつまみを「はやい」の位置にします。「はやい」の位置にしないとフットコントローラーでの縫い速さの制御幅が狭くなります。
- 本体の電源スイッチを「ON」にして電源をいれます。(同時に面板下部のLEDランプと液晶表示が点灯します。)

フットコントローラーを使用する場合



電源スイッチ
「ON」



⚠ 注意

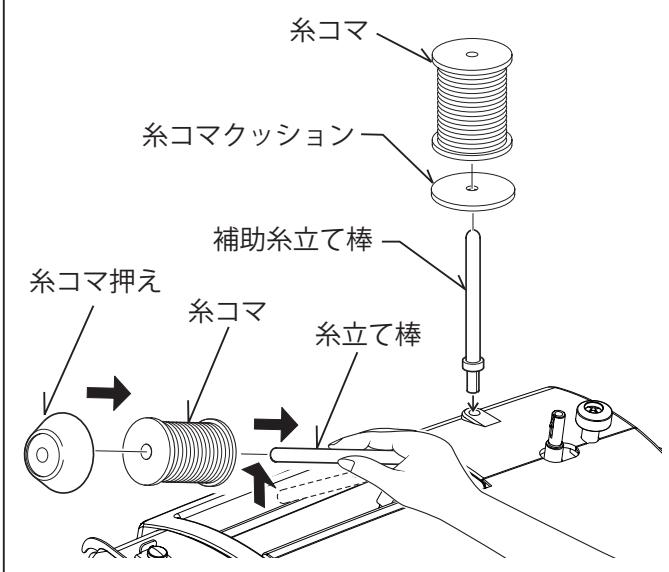
- フットコントローラーを接続しているときには、スタート/ストップボタンの操作は無効になります。スタート/ストップボタンを押しても液晶表示に「Fc」でエラー表示されます。
- ミシンを使用しないときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。
- 電源コードは必ず付属の当社指定の物を、ご使用ください。
- 電源コード使用後は乾いた布で付着したほこりや汚れを拭き取ってください。

ご使用になる前に

糸コマのセット

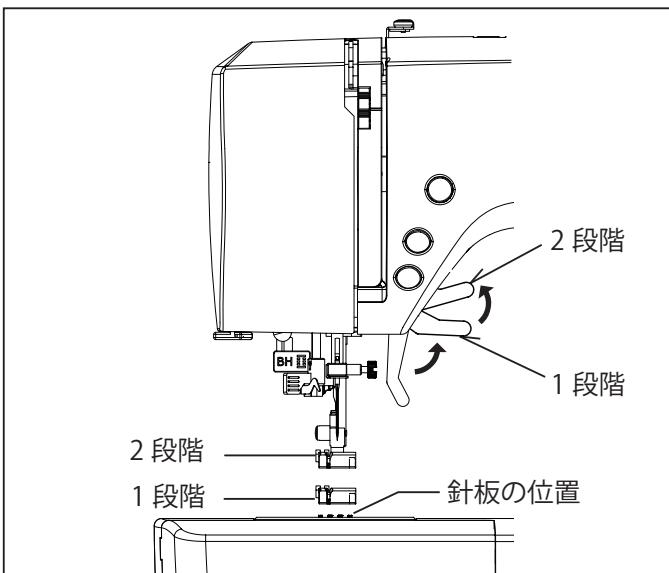
糸立て棒に、糸コマを差し込み、糸コマ押えをかぶせます。

予備の糸を使用するときには、補助糸立て棒を使用します。



押え上げ

1. 縫うときは押え上げレバーを下げます。
2. 押え上げレバーは2段階です。2段階目に上げるときは、押え上げレバーを手で支えながら、さらに持ち上げます。
※ 2段階目は上で固定されません。



ご使用になる前に

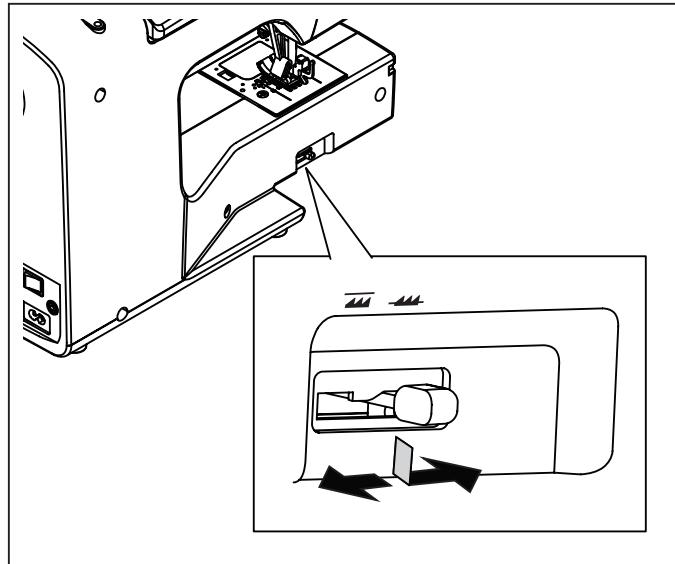
送り歯調節レバー

送り歯調節レバーを左側にすると、送り歯が下がり、手で自由に布を送れます。

つくり縫い、フリーモーション縫いが可能です。

お知らせ：

- 送り歯調節レバーで送り歯を下げてから上げたときは、プーリーを手前に1回転させてください。



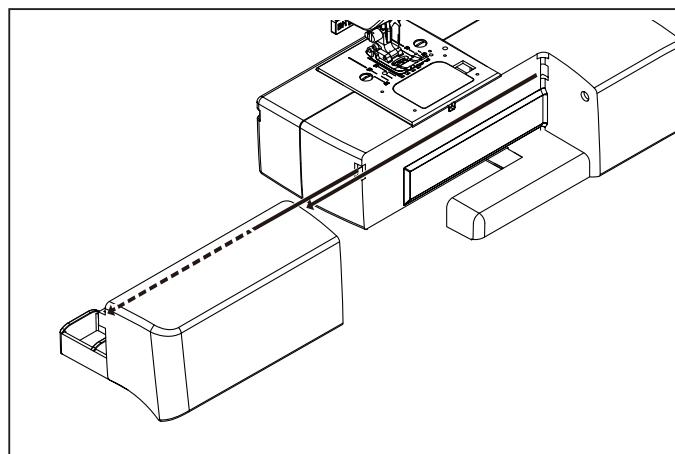
フリーアーム（筒縫い）

このミシンは、補助テーブル（付属品入れ）を左に引っ張ってはずすと、フリーアーム型となります。

補助テーブル（付属品入れ）を元に戻すときは、テーブルをミシンに沿ってすべらせながら、所定の位置に差し込みます。



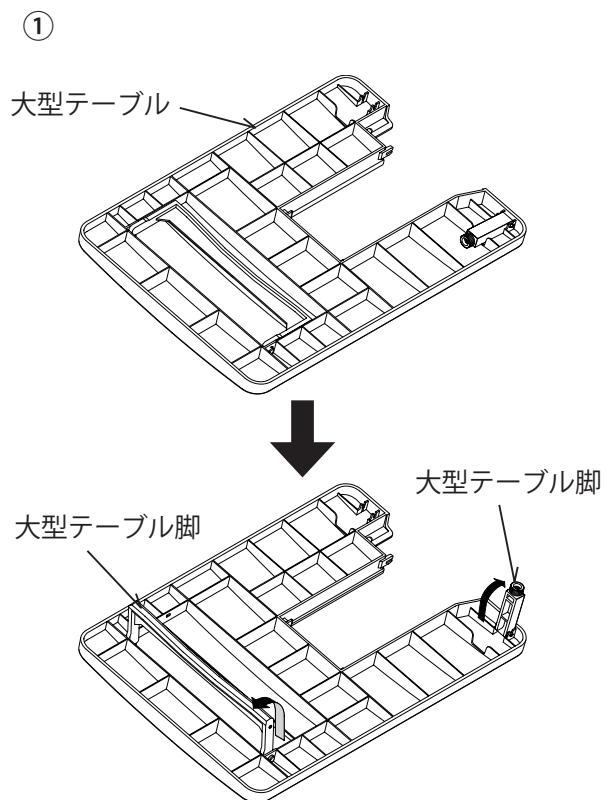
フリーアームに筒型になった部分を入れて縫います。
袖つけ、袖口の始末、カフスつけ、衿つけ、ズボンの
袖口の始末に便利です。



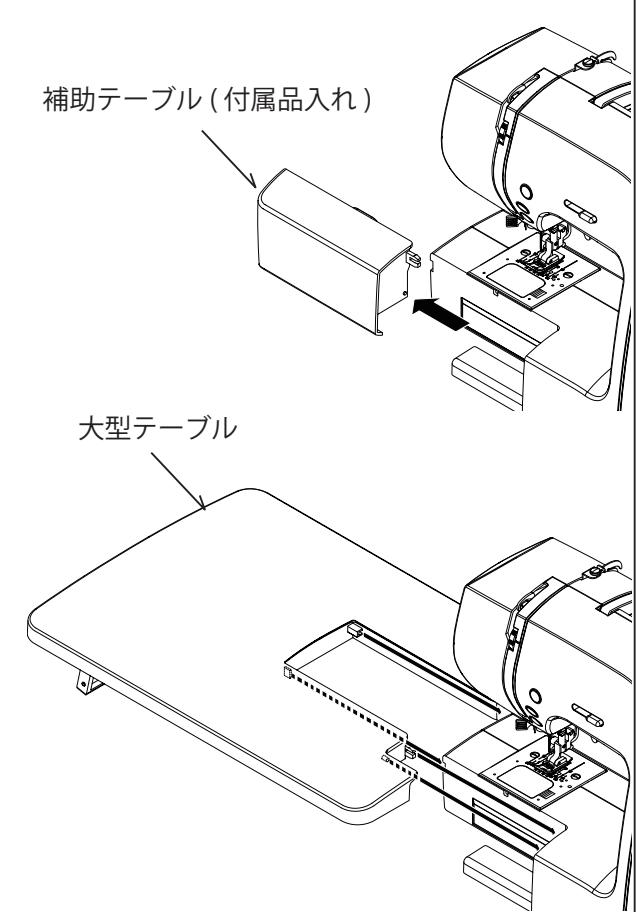
ご使用になる前に

大型テーブルの使いかた

① 大型テーブル脚を矢印の方向に立てます。



② 補助テーブル（付属品入れ）を取りはずし、図のように大型テーブルを取り付けます。



ご使用になる前に

下糸の巻きかた

- ① 糸立て棒に、糸コマを入れ、糸コマ押さえをかぶせます。

※ 糸コマのセットのしかたは 9 ページを参照ください。

糸コマから糸を引き出し、右手で保持しながら糸案内を経由して板バネの間にはさみ、下糸巻き案内に糸をかけます。

- ② ボビンの穴に内側から糸を通し、ボビンのみぞと下糸巻き軸のバネの位置をあわせて下糸巻き軸にセットします。

- ③ 糸の端を持ちボビンを矢印の方向に押すと、液晶表示に「**JC**」が表示されます。スタート／ストップボタンを押して糸を巻きます。

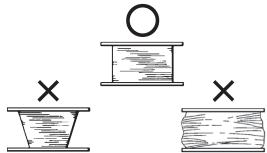
- ④ ボビンが数回転したらいったん止め、巻き始めの糸を短く切ったあと再度スタート／ストップボタンを押して糸を巻き続けます。

- ⑤ 下糸がいっぱいになって、ボビンの回転が止またら、すぐにスタート／ストップボタンを押してミシンを止めます。下糸巻き軸を左に戻して、ボビンをはずし、糸の端を切ってください。

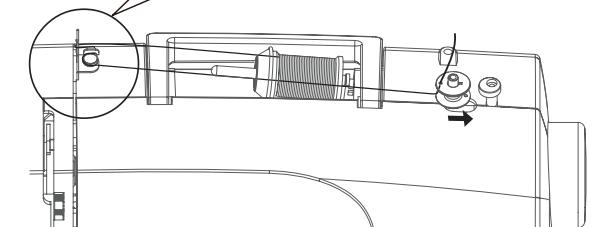
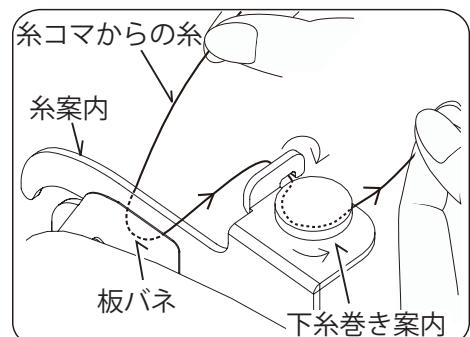
下糸巻き案内に糸がきちんとかけられていないと、図のように正しく巻けません。



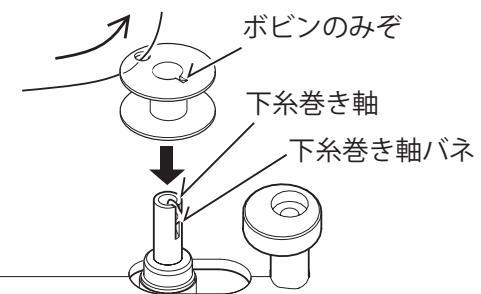
ヒント



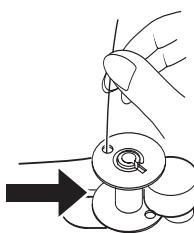
①



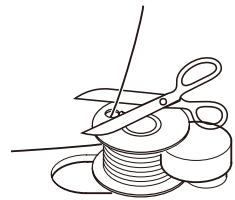
②



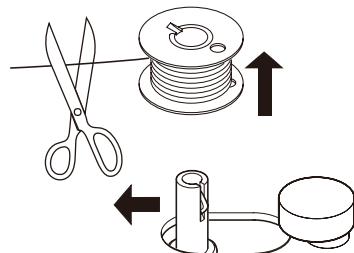
③



④



⑤



ご使用になる前に

⚠ 注意

- ・ボビンのセットは、必ず電源スイッチを「OFF」にしてから行ってください。
- ・ボビンから糸の出る方向が正しくないと、針折れや糸調子不良の原因となりますので、必ず図のように正しい向きにセットしてください。

ボビンのセット

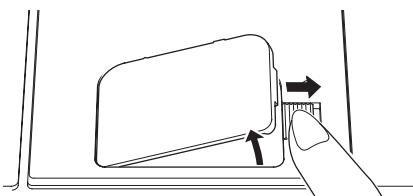
① プーリーを手前に回して、針を最上点に上げます。

①



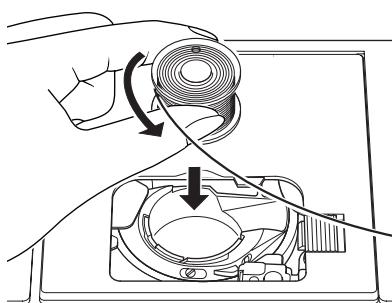
② かまカバー開放レバーを右に押して、かまカバーをはずします。

②



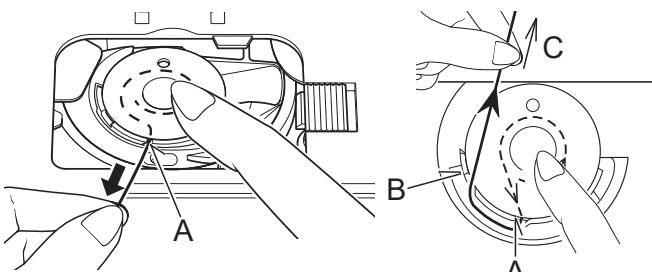
③ 糸が左巻きになる方向にボビンを入れます。

③



④ ボビンを指で押さえながら、糸を手前のみぞAに通し、その糸を左に引っ張ります。

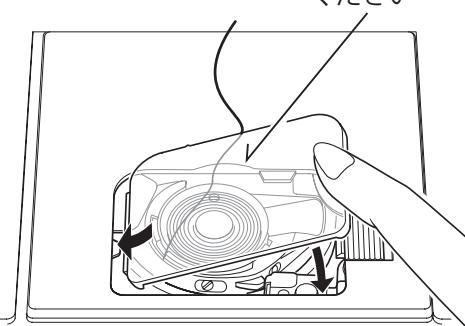
④



⑤ 糸を 10 cmほど引き出し、かまカバーを取り付けます。

⑤

凹み部に糸を通して
ください



ご使用になる前に

⚠ 注意

- ・上糸のセットは、必ず電源スイッチを「OFF」にしてから行ってください。
- ・押え上げレバーを上げないで上糸をかけると、内部の糸調子皿に糸が通らないため、糸調子が取れず、正常な縫いができません。

上糸のかけかた

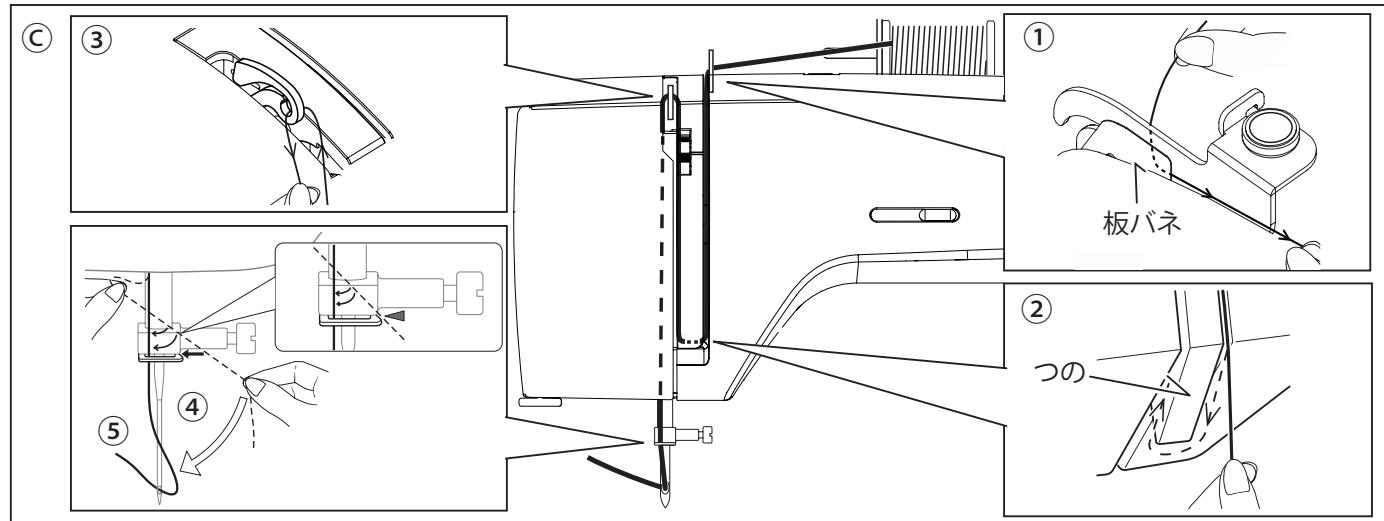
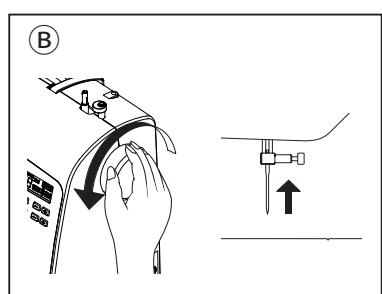
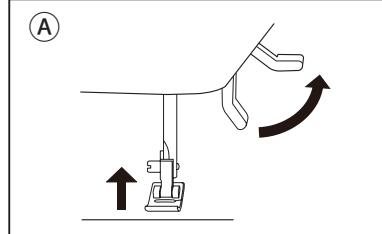
Ⓐ 上糸をかける前に、必ず押え上げレバーを上げます。

Ⓑ プーリーを手前に回して、針を最上点に上げます。

Ⓒ 図の順番に糸をかけます。

- ① 右手で糸を保持し、左手で糸案内①に糸をかけ、止まるところまで手前に引きます。そのまま左手で手前に引っ張って板バネの間にはさみ、みぞに沿って糸を通して下へ引っ張ります。
- ② つの②の内側を、右から左にリターンします。
- ③ プーリーを回して天びんを上げ③へ右から左に糸をまわしかけます。
- ④ 図のように糸を保持して、針棒糸案内④の右から左へ糸を通します。
- ⑤ 自動糸通し器で針穴⑤に糸を通します。

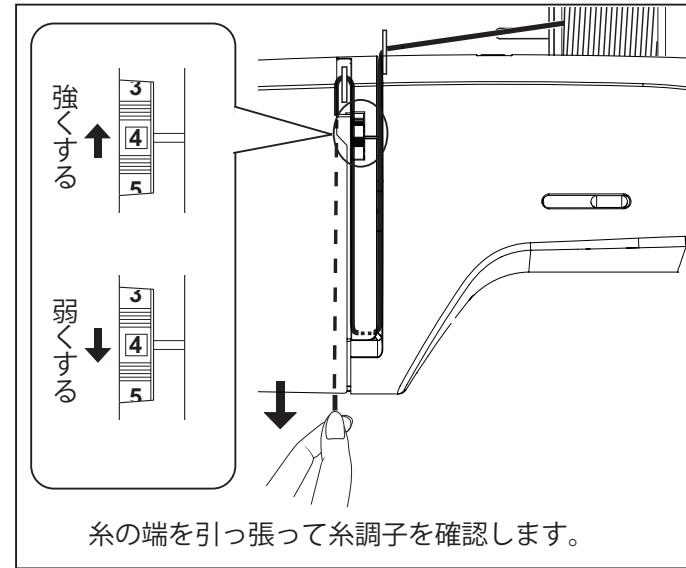
※ 自動糸通し器の使いかたは 15 ページ参照



上糸かけのヒント

内部の糸調子皿に正しく糸が通っているか確認するときは、下記の要領で行ってください。

1. まず、押え上げレバーを下げます。
2. 上糸調子ダイヤルを数字の大きい方へ回し、糸の端を引っ張って糸調子が強くなっているか確認します。
3. 次にダイヤルを数字の小さい方へ回し、糸の端を引っ張って糸調子が弱くなっているか確認します。
4. 確認が終わったら、ダイヤルを元の位置（④）に戻します。

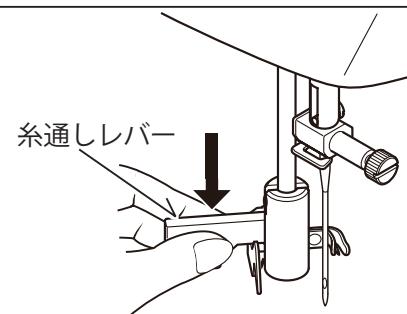


ご使用になる前に

自動糸通し器の使いかた

■糸通しの前に押え上げレバーを上げ、プーリーを手前に回して針を最上点に上げます。

① 糸通しレバーをいちばん下まで下げます。



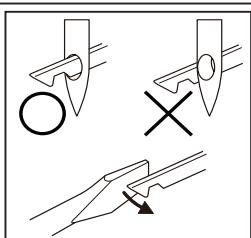
② 図のように糸通しカギが針穴に入る方向に回転させてください。

お知らせ：

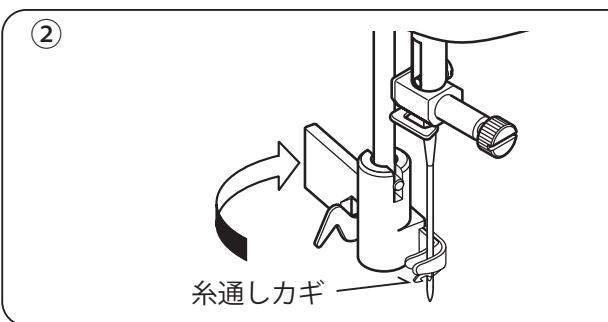
- ・自動糸通し器をご使用する場合は針を必ず最上点にして、ご使用ください。

お役立ち情報

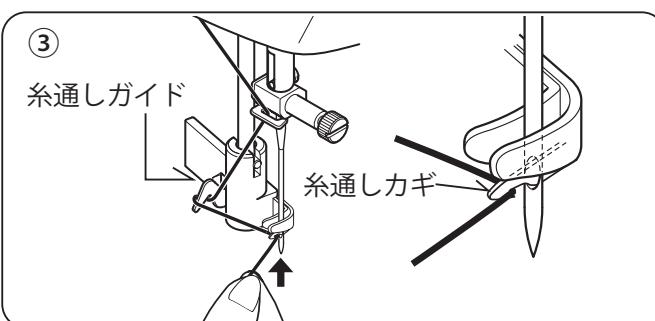
このとき糸通しカギが針穴からそれている場合は、小さなネジ回しなどを使って糸通しカギが針穴に入るよう、糸通しカギの位置を調整してください。



③ 糸を糸通しガイドにかけ、そのまま針の手前まで糸を引っ張ります。その糸を下から上に持ち上げるよう糸通しカギにかけ、少し手前に引っ張ります。



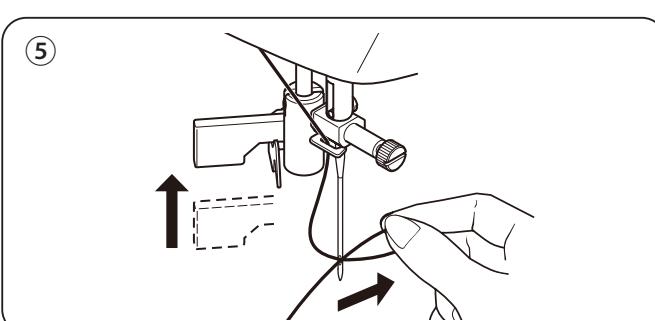
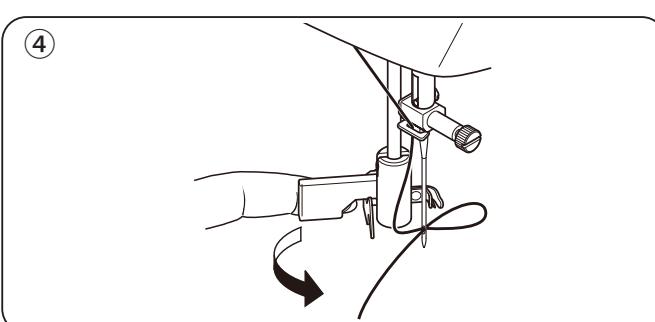
④ 糸通しレバーを後方から前に軽く引くと、糸が針穴後方に輪になって通ります。



⑤ 輪になった糸を針の後ろ側へ引き出してください。

お知らせ：

- ・細い針に太い糸を使用すると糸通しができません。



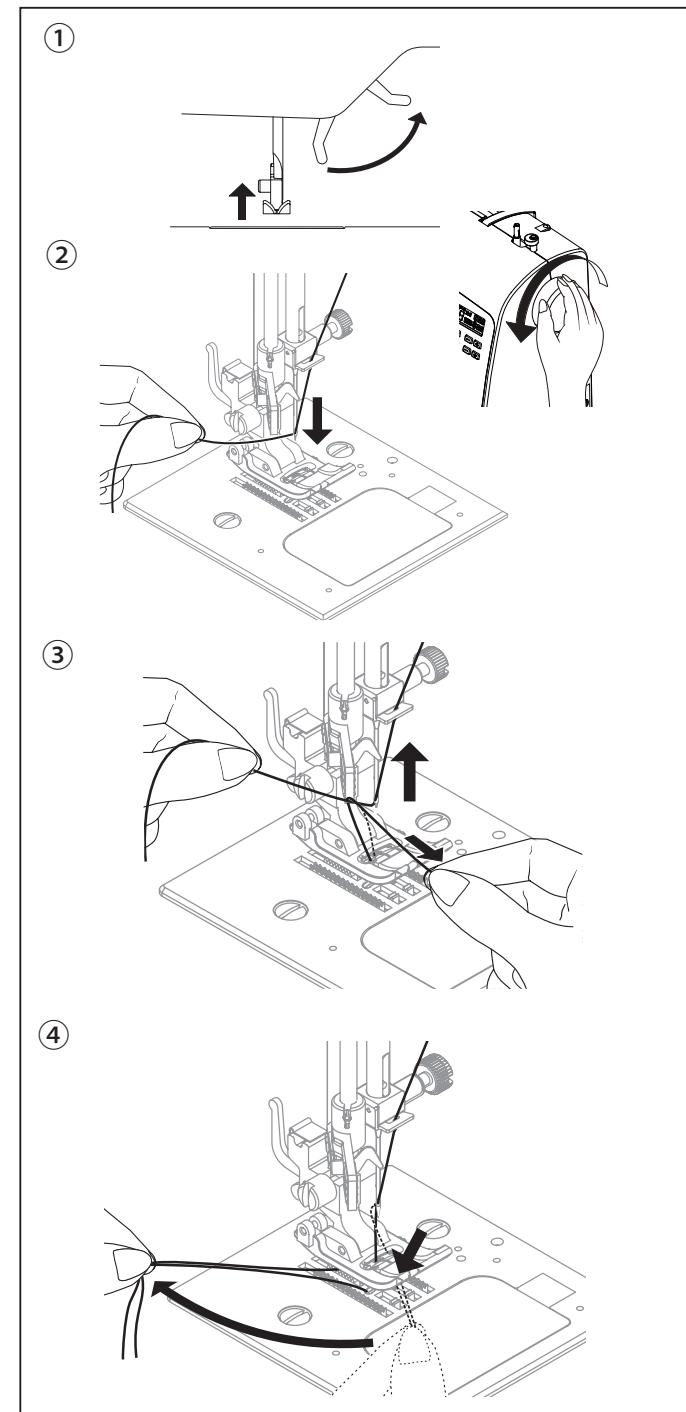
△ 注意

- ・ミシンが動いているときは糸通しレバーを下げないでください。故障だけでなく、針が折れ、けがの原因になります。

ご使用になる前に

下糸の引き上げかた

- ① 押え上げレバーを上げてください。
- ② 針穴に通っている上糸をゆつたりと左手で持ち、ブリーを手前に完全に一回転させてください。
- ③ 左手の上糸を軽く引っ張り上げると、下糸がついてあがります。
下糸を右手で手前に引き出してください。
- ④ 両糸をそろえて押えのみぞ(矢印)に入れ、押えの下を通して後方へ引き、糸を 10 cm ほど残しておいてください。



ご使用になる前に

針と糸と布の使いかた

- HA × 1 家庭用ミシン針を使用してください。
- 布地に適した針と糸を使用してください。

- 上糸と下糸は通常同じ種類の糸を使います。
- 曲がった針や先の丸くすりへった針は使用しないでください。

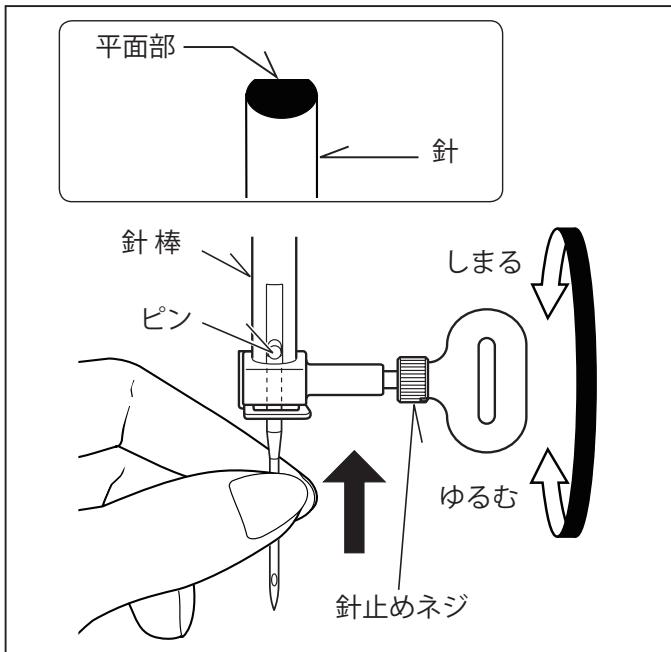
(糸は番手が大きいほど細く、針は番手が大きいほど太くなります。)

布 地		糸		針
		種類	番手	
薄 地	サテン、ジョーゼット、オーガンジー、ガーゼなど アドバイス：縫いしわを防止するには縫い目ピッチ2~3ミリを おすすめします。	化繊糸（シャッペスパン）	90番	9~11番
		カタソ糸（木綿糸）		
		絹糸		
普通地	プロード、キャラコ、シーチング、フラノなど アドバイス：穴のあいているレースを縫う場合、布の下に紙を敷いて ください。	化繊糸（シャッペスパン）	50~90番	9~14番
		カタソ糸（木綿糸）		
		絹糸		
厚 地	レーヨンなどのカーテン地、デニム、タオル、 コーデュロイなど	化繊糸（シャッペスパン）	30番 ※ 20番などの太い糸の 使用は控えてください	16番
		カタソ糸（木綿糸）	50~60番	14~16番
		絹糸		
伸縮性 のある 生地	ジャージー、トリコット、メリヤス、ニット地など	ニット用糸	50~90番	9~14番 ※ニット針の使用をおすすめし ます
		化繊糸（シャッペスパン）		
		絹糸		

※ ナイロン透明糸を使用される場合、糸の太さ / 布の種類に関係なく、針の太さは 14 番～16 番をおすすめします。
下糸はボビンに対して、約半分～7 分目迄を目安としてボビンに巻いてください。上糸調節ダイヤルを「0」から試し縫いをし調整してください。

針の取りかえかた

1. プーリーを手前に回し、針棒を最上点に上げます。
2. 付属の針板ドライバーで、針止めネジを手前に回し、針をはずします。
3. 新しい針の柄の平らな面を後ろ側に向けて持ち、針が針棒のピンに当たるまで差し込みます。
4. 付属の針板ドライバーで、針止めネジを時計回りに締めます。



△ 注意

- ・針を取りかえるときは、必ず電源スイッチを切ってください。
- ・針を取りかえるときは、押えの下に織物を置き、押えを下げて針が針板の溝に落ちないようにしてください。

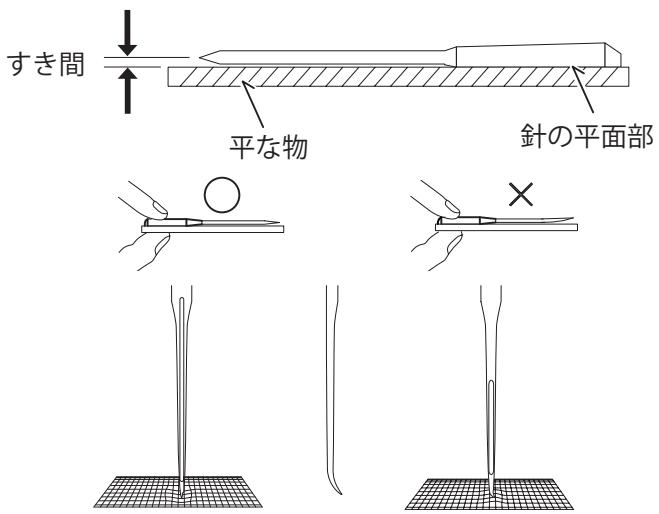
ご使用になる前に

針が曲がっていないかチェックする

針の平面部を平らな物（例えば針板など）の上に置き、すき間が針先まで平均に見えるか確認します。針先が曲がったり、つぶれている物は使わないようにしてください。

⚠ 注意

- 曲がった針は使用しない。



上糸調子のとりかた

直線縫いの場合、上糸は布表側と布裏側で下糸とバランスよくからみあう状態に調整します。
通常の場合は、「4」に合わせてください。

上糸が強くて、布の表に下糸が出るときは、上糸調子ダイヤルを数字の小さい方へ回して上糸調子を弱めます。

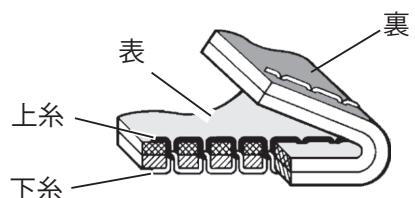
上糸が弱くて、布の裏に上糸が出るときは、上糸調子ダイヤルを数字の大きい方へ回して上糸調子を強めます。



ヒント
上糸調子を調節しても糸調子が変わらない場合は、ボビンのセットもしくは下糸の調子が原因の場合もあります。

ボビンが正しくセットされているかご確認ください。
※ボビンのセットは13ページを参照ください。

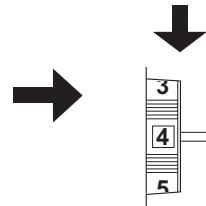
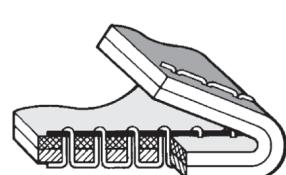
直線縫いの正しい糸調子



上糸が強い

布の表に下糸が出る

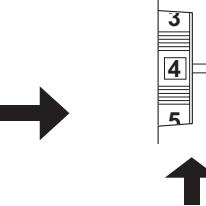
上糸調子を弱めます



上糸が弱い

布の裏に上糸が出る

上糸調子を強めます



ご使用になる前に

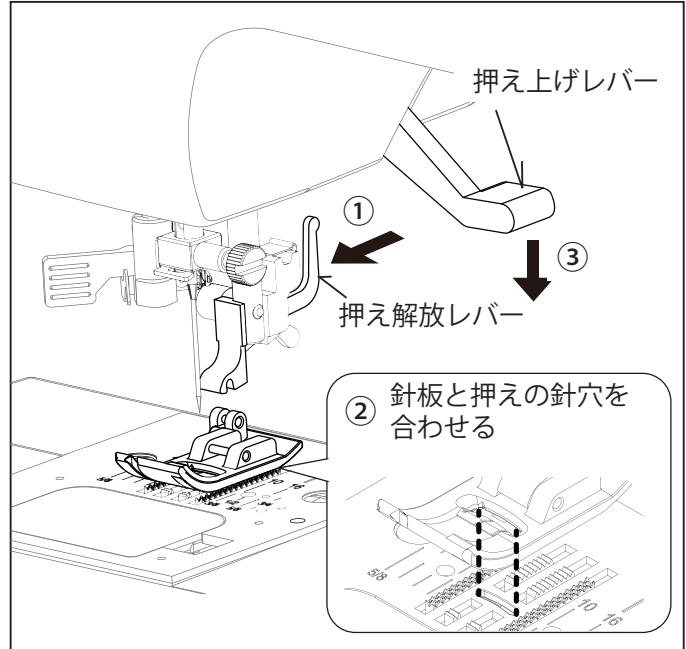
⚠ 注意

- 押えの取りかえは、必ず電源スイッチを「OFF」にしてから行ってください。

押えの取りかえかた

※ 押えと針を上げます。

- 押え解放レバーを矢印の方向へ押すと、押えがはずれます。
- 針板と押えの針穴が合うように新しい押えを針板の上に置きます。
- 押え上げレバーを下げる押えがセットされます。入りにくいときは、押え解放レバーを押すと入ります。



ご使用になる前に

操作ボタン

スタート / ストップボタン (スタート)

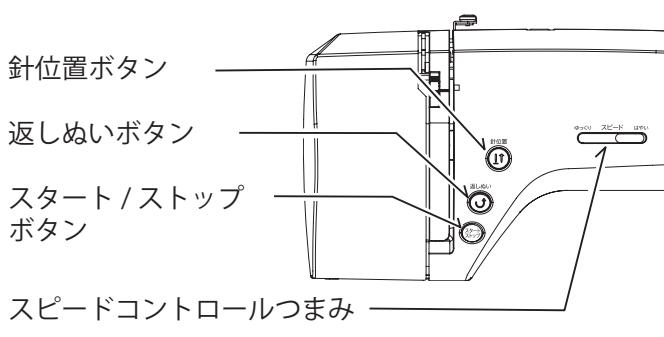
スタート / ストップボタンを押すと、ゆっくりとスタートし、もう一度押すと針は停止します。

針位置ボタン (↑↓)

ミシンを停止したときの針の位置を選ぶことができます。電源を入れたときは、針が上で停止で設定されています。

ボタンを押すたびに針の位置が切りかわります。

液晶表示に「↑」が表示されているときは上、「↓」が表示されているときは下で針が止まります。

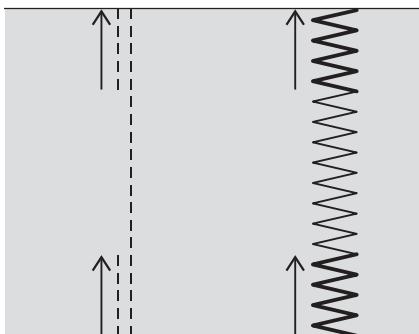


返しぬいボタン (↔)

返しぬい機能 (直線縫い / ジグザグ縫い)

ボタンを押している間は返しぬいをし続けます。

返しぬい機能 (直線縫い / ジグザグ縫い)



止めぬい機能 (直線縫い / ジグザグ縫い以外)

直線とジグザグ縫い以外の模様を選択すると、しっかりと縫い終わるように数針止めぬいをして自動的に止まります。返しぬいボタンを押すと、その位置に止めぬいをします。

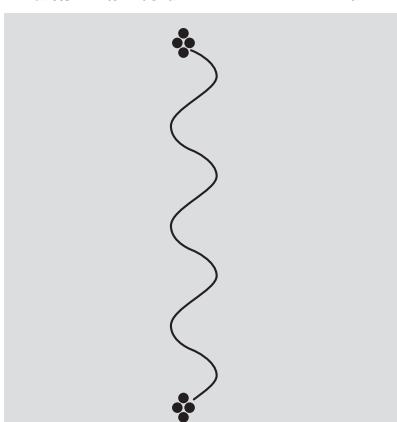
お知らせ：

- ボタンホール縫いでは、返しぬいボタンは機能しません



縫い始めと縫い終わりで糸がほどけないようにするために、この機能はとても便利です。

止めぬい機能 (直線縫い / ジグザグ縫い以外)



スピードコントロールつまみ

自由に速度調整が可能で、つまみを右に動かすとスピードが速くなり、左に動かすとスピードが遅くなります。

最高速度は、縫い模様ごとに設定されています。

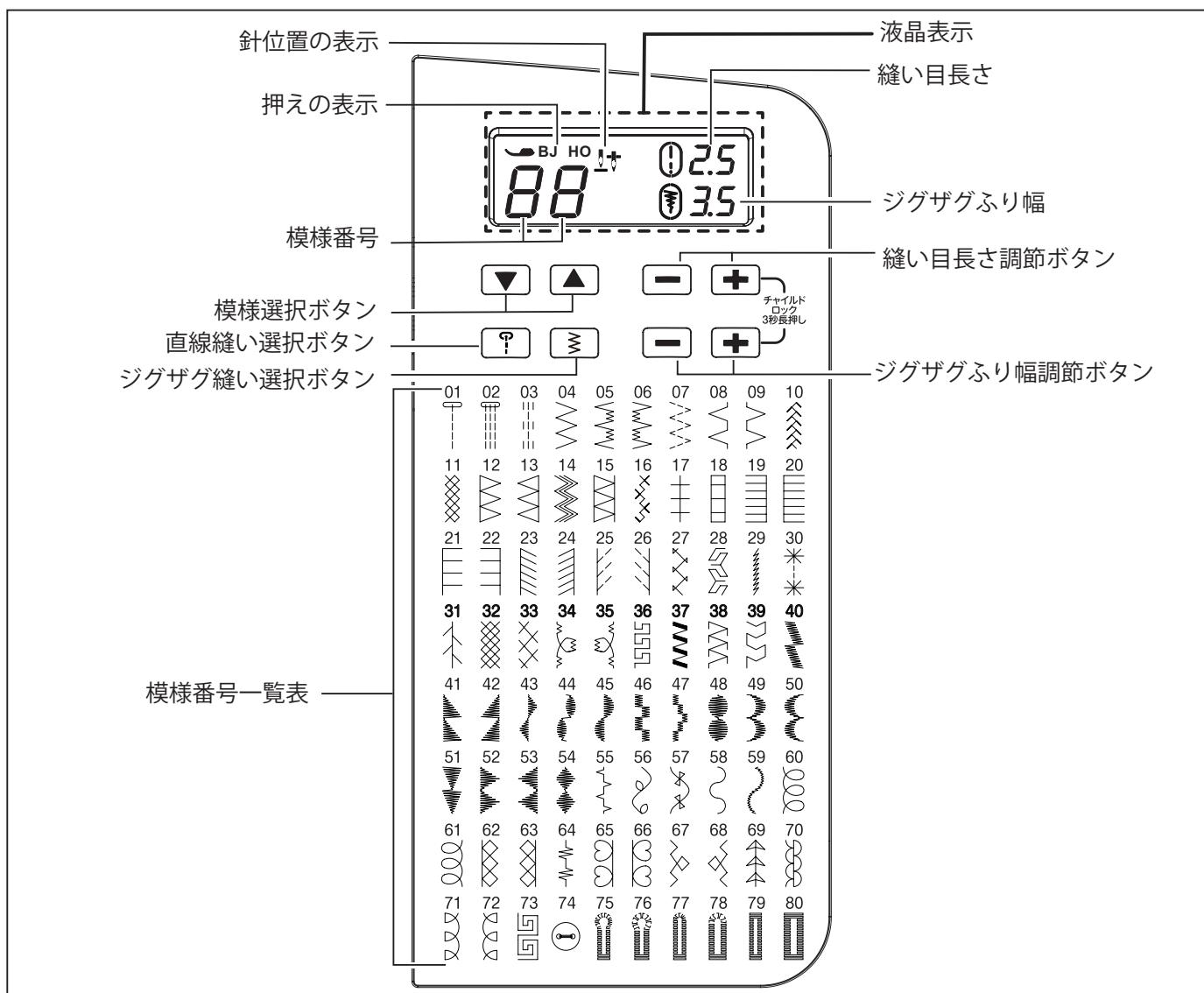
縫いスピードは縫っている途中でもスピードコントロールつまみで自由に調節できます。

ゆっくり スピード はやい

スピードコントロールつまみ

ご使用になる前に

操作パネルの機能



模様選択ボタン / 縫い模様の選択

電源を入れると、液晶表示に“01”と表示され、この状態で直線縫いをすることができます。

■ 模様選択ボタン

模様番号一覧表を見ながらボタンを押して選択します。選択した数字が液晶表示に表示されます。

▲を押すごとに番号が1ずつ増え (01→02→03…)

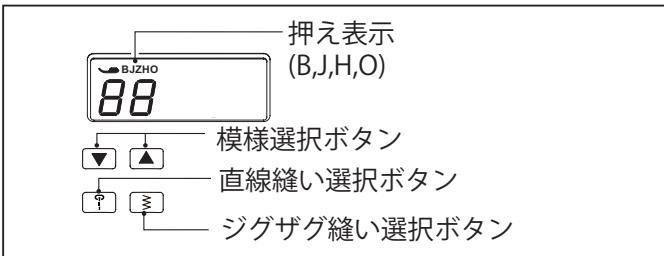
▼を押すごとに番号が1ずつ減っていきます (01→80→79→78…)

また、ボタンを長押しすることで番号が10ずつ増減します。

■ 直線縫い選択ボタン / ジグザグ縫い選択ボタン

直線縫い選択ボタンを押すと、液晶表示の模様番号が“01”と表示され、直線縫いになります。

ジグザグ縫い選択ボタンを押すと、模様番号が“04”と表示され、ジグザグ縫いになります。

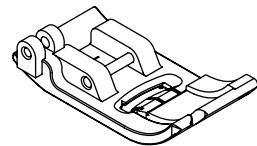


ご使用になる前に

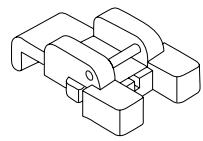
押え表示と使用する押え

模様番号を選択したあと、液晶表示の押え表示を確認し、
使用する押えの記号を確認してください。
ファスナー付け、パイピング以外は必ず押え表示に表示
された押えを使用してください。

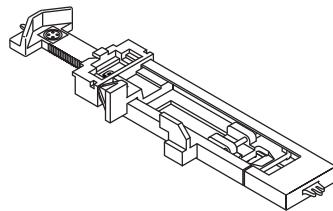
J：標準押え



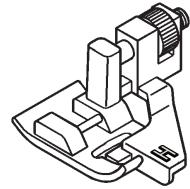
O：ボタン付け押え



B：ボタンホール押え



H：かくし縫い押え



ご使用になる前に

縫い目長さ調節ボタン/ ジグザグふり幅調節ボタン

縫い目長さとジグザグふり幅は模様に合わせて設定されています。

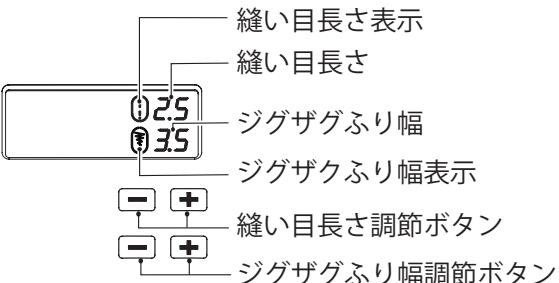
縫い目長さ表示、ジグザグふり幅表示が丸で囲われた表示が模様に合わせた設定値となります。

縫い目長さを調整したいときは、縫い目長さ調節ボタンを押して調整してください。

ジグザグふり幅を調整したいときは、ジグザグふり幅調節ボタンを押して調整してください。

お知らせ：

- ・模様によって手動設定の数が多いものや、少ないものがあります。
- ・縫っている間でもボタンを押すと、手動設定値が変えられます。



チャイルドロック設定／解除

- ・縫い目長さ調節ボタンとジグザグふり幅調節ボタンの「+」の2つのボタンを同時に3秒長押しすると、液晶表示に「CL」が表示されチャイルドロック設定となります。チャイルドロック設定時は各ボタンを押しても"ピッピッ"とブザー音が鳴り操作ができません。
- ・チャイルドロック設定時に再度縫い目長さ調節ボタンとジグザグふり幅調節ボタンの「+」の2つのボタンを同時に3秒長押しすると、チャイルドロックが解除されます。チャイルドロック設定時に電源スイッチをOFFにした場合もチャイルドロックが解除されます。

液晶表示のエラー表示

ミシン操作中にエラーなどが発生すると、液晶表示にエラー表示されます。

表示されたエラー表示に伴ない、以下の内容をご確認ください。

縫い操作中に下糸巻き軸の位置が右側になると表示され、動作を停止します。

→下糸巻き軸を左に戻します。

下糸巻きのときに、下糸巻き軸を右側にすると表示されます。

→下糸巻き軸を左に戻すと通常表示に戻ります。

ボタンホールレバーの位置が正しくありません。

→ボタンホールを縫うときはボタンホールレバーを下げてください。

→ボタンホール以外を縫うときはボタンホールレバーを上げてください。

Lo

かまに糸が絡んだりミシンの回転が強制的に停止されたため、ミシンが停止しました。

→電源を切り、原因を取り除いてください。

Fc

フットコントローラー接続時に、スタート／ストップボタンを操作した。

→フットコントローラーを接続しているときは、スタート／ストップボタンの操作は無効になり、スタート／ストップボタンを押してもスタートできません。

上記以外のエラーが表示された場合

→電源を入れ直してください。

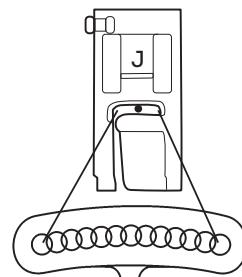
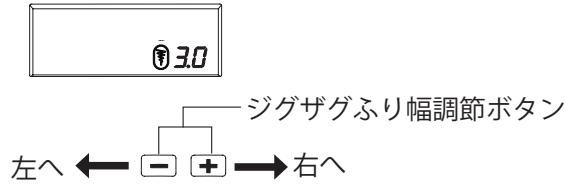
エラー表示が消えない場合、購入店もしくは弊社「お客様相談窓口」にお問い合わせください。

正しい使いかた

縫い目長さと縫い目幅早見表

模様	No.	縫い目長さ (mm)		直線縫い針位置	
		基本設定 (自動)	微調整 (手動)	基本設定 (自動)	微調節 (手動)
---	01	2.5	1.0 ~ 4.5	3.0	0 - 6.0*
	02	2.5	1.5 ~ 3.0		

直線縫いはジグザグふり幅調節ボタンで、針位置を 13箇所の位置で選択できます。



模様	No.	縫い目長さ (mm)		ジグザグふり幅 (mm)	
		基本設定 (自動)	微調整 (手動)	基本設定 (自動)	微調整 (手動)
---	03	2.5	1.5 ~ 3.0	3.0	0 ~ 6.0
\/\/	04	2.0	0.5 ~ 3.0	5.0	0 ~ 6.0
\//\//	05	1.0	0.8 ~ 3.0	6.0	2.0 ~ 6.0
\//\//	06	1.0	0.8 ~ 3.0	6.0	2.0 ~ 6.0
\//\//	07	1.0	0.5 ~ 2.5	6.0	3.0 ~ 6.0
\//\//	08	2.0	1.0 ~ 3.0	6.0	1.0 ~ 6.0
\//\//	09	2.0	1.0 ~ 3.0	6.0	1.0 ~ 6.0
\//\//	10	2.0	1.0 ~ 3.0	6.0	3.0, 4.5, 6.0
\//\//	11	2.5	1.5 ~ 3.0	6.0	3.0, 4.5, 6.0

模様	No.	縫い目長さ (mm)		ジグザグふり幅 (mm)	
		基本設定 (自動)	微調整 (手動)	基本設定 (自動)	微調整 (手動)
\\\\	12	2.5	1.5 ~ 3.0	5.0	3.0 ~ 6.0
\\\\	13	2.5	1.5 ~ 3.0	5.0	3.0 ~ 6.0
\\\\	14	2.5	1.5 ~ 3.0	5.0	2.0 ~ 6.0
\\\\	15	2.5	1.5 ~ 3.0	5.0	3.0 ~ 6.0
X\X	16	2.0	1.5 ~ 3.0	6.0	3.0, 4.5, 6.0
++	17	2.5	1.5 ~ 3.0	5.0	2.0 ~ 6.0
	18	2.5	1.5 ~ 3.0	4.0	1.0 ~ 6.0
	19	2.5	1.5 ~ 3.0	5.0	1.0 ~ 6.0
	20	2.5	1.5 ~ 3.0	5.0	1.0 ~ 6.0

正しい使いかた

模様	No.	縫い目長さ (mm)		ジグザグふり幅 (mm)	
		基本設定 (自動)	微調整 (手動)	基本設定 (自動)	微調整 (手動)
	21	2.5	1.5~3.0	6.0	1.0~6.0
	22	2.5	1.5~3.0	6.0	1.0~6.0
	23	2.5	1.5~3.0	5.0	1.0~6.0
	24	2.5	1.5~3.0	5.0	1.0~6.0
	25	2.0	1.0~3.0	5.0	1.0~6.0
	26	2.0	1.0~3.0	5.0	1.0~6.0
××	27	2.5	1.0~3.0	6.0	2.0, 4.0, 6.0
◎◎	28	2.0	1.5~3.0	6.0	3.0~6.0
	29	2.0	1.0~3.0	1.0	1.0~3.0
※※	30	2.5	1.5~3.0	6.0	3.5~6.0
卜卜	31	2.5	1.0~3.0	5.0	1.0~6.0
××	32	2.0	1.5~2.5	6.0	6.0
××	33	2.0	1.5~3.0	6.0	3.0, 4.5, 6.0
××	34	1.2	1.0~2.5	6.0	3.0, 4.0, 5.0, 6.0
××	35	1.2	1.0~2.5	6.0	3.0, 4.0, 5.0, 6.0
□□	36	2.5	1.0~3.0	6.0	3.5~6.0
VV	37	0.5	0.5~1.5	5.0	2.0~6.0
VV	38	2.5	1.5~3.0	5.0	3.0~6.0

模様	No.	縫い目長さ (mm)		ジグザグふり幅 (mm)	
		基本設定 (自動)	微調整 (手動)	基本設定 (自動)	微調整 (手動)
VV	39	2.5	1.0~3.0	6.0	3.0~6.0
××	40	0.5	0.5~1.5	6.0	3.0~6.0
△△	41	0.5	0.5~1.5	6.0	3.0, 4.0, 5.0, 6.0
△△	42	0.5	0.5~1.5	6.0	3.0, 4.0, 5.0, 6.0
△△	43	0.5	0.5~1.5	6.0	3.5, 6.0
△△	44	0.5	0.5~1.5	6.0	3.5~6.0
△△	45	0.5	0.5~1.5	6.0	3.0~6.0
△△	46	0.5	0.5~1.5	6.0	3.0~6.0
△△	47	0.5	0.5~1.5	6.0	3.0, 4.0, 5.0, 6.0
△△	48	0.5	0.5~1.5	6.0	3.5~6.0
△△	49	0.5	0.5~1.5	6.0	3.0~6.0
△△	50	0.5	0.5~1.5	6.0	3.0~6.0
△△	51	0.5	0.5~1.5	6.0	3.0, 4.0, 5.0, 6.0
△△	52	0.5	0.5~1.5	6.0	3.0, 4.0, 5.0, 6.0
△△	53	0.5	0.5~1.5	6.0	3.0, 4.0, 5.0, 6.0
△△	54	0.5	0.5~1.5	6.0	3.0, 4.0, 5.0, 6.0
△△	55	2.0	1.0~2.5	6.0	2.0~6.0
△△	56	1.5	1.0~2.5	6.0	3.0, 4.0, 5.0, 6.0

正しい使いかた

模様	No.	縫い目長さ (mm)		ジグザグふり幅 (mm)	
		基本設定 (自動)	微調整 (手動)	基本設定 (自動)	微調整 (手動)
※	57	1.5	1.0～2.5	6.0	3.0, 4.0, 5.0, 6.0
※	58	1.2	0.8～2.5	6.0	3.0, 4.0, 5.0, 6.0
※	59	0.5	0.5～1.5	6.0	3.0, 4.0, 5.0, 6.0
※	60	1.2	1.0～2.5	6.0	3.0, 4.0, 5.0, 6.0
※	61	1.2	1.0～2.5	6.0	3.0, 4.0, 5.0, 6.0
※	62	2.5	1.5～3.0	6.0	2.0～6.0
※	63	2.5	1.5～3.0	6.0	2.0～6.0
※	64	1.5	0.5～2.5	6.0	2.0, 3.0, 4.0, 5.0, 6.0
※	65	1.0	0.8～2.5	5.0	2.5～6.0
※	66	1.0	0.8～2.5	5.0	2.5～6.0
※	67	1.5	1.0～2.5	6.0	2.0, 3.0, 4.0, 5.0, 6.0
※	68	1.5	1.0～2.5	6.0	2.0, 3.0, 4.0, 5.0, 6.0
※	69	2.0	1.5～3.0	6.0	2.0, 3.0, 4.0, 5.0, 6.0
※	70	1.2	1.0～1.5	6.0	3.0, 4.0, 5.0, 6.0
※	71	1.2	1.0～2.5	5.0	2.0, 3.0, 4.0, 5.0, 6.0
※	72	1.2	1.0～2.5	5.0	2.0, 3.0, 4.0, 5.0, 6.0
※	73	1.5	1.0～2.5	6.0	3.0, 4.0, 5.0, 6.0
※	74	0.0	—	3.0	2.0～6.0

模様	No.	縫い目長さ (mm)		ジグザグふり幅 (mm)	
		基本設定 (自動)	微調整 (手動)	基本設定 (自動)	微調整 (手動)
※	75	0.5	0.5～1.2	4.0	—
※	76	0.5	0.5～1.2	5.0	—
※	77	0.5	0.5～1.2	4.0	—
※	78	0.5	0.5～1.2	6.0	—
※	79	0.5	0.5～1.2	4.0	—
※	80	0.5	0.5～1.2	6.0	—

正しい使いかた

縫いにくい布地の縫いかた

- ・針と糸と布の使いかたは17ページを参照ください。

段縫い

布送りがスムーズでない場合、手で布の送りを助けながら縫います。

薄地（レース地、薄物布）

レース地や薄い布の場合、細い針（9番・11番）とそれに適した糸を使用します。

お知らせ：

- ・布地によっては、布の下に薄い紙（半紙、ハトロン紙など）を敷くと目とびや縫いしわを防ぐことができます。
- ・薄物の縫い始めは、上糸と下糸の端を少し引っ張りながら縫います。
- ・縫い目長さは“こまかく”してください。

厚地（タオル布）

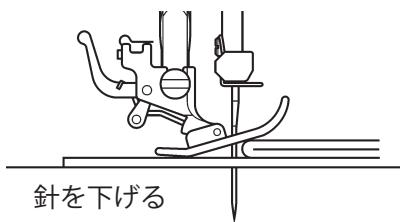
タオル布を縫う際は、布の種類によって布送りが悪くなる場合があります。布の下に紙を敷き、太い針16番を使用し、ゆっくりとしたスピードで縫います。縫い終わったら、紙を取り除きます。

お知らせ：

- ・縫い目長さは“あらく”してください。

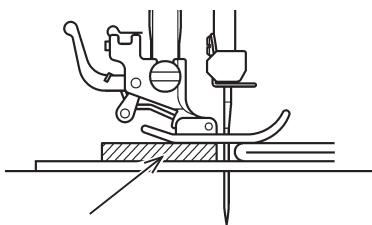
重なった厚地の布を縫う場合

①



① 図の状態でミシンを止め、針を下げます。

②



② 同じ厚さの布地または厚紙を押えの下に敷いて縫います。

布送りがスムーズとなり、目とびも防げます。

正しい使いかた

直線縫い 01

直線縫いはミシン縫いの基本ですので、試し縫いをして正しい使いかたをよく覚えましょう。

■ ミシンのセット

押え「標準押え（J）」

- ① 上糸と下糸をそろえて押えの下から向こう側へ10cmほど引き出します。
- ② 布を押えの下に入れ、押えを下げます。
- ③ プーリーを手前に回して、針を布に落とします。
- ④ スタート / ストップボタンを押して縫い始めます。

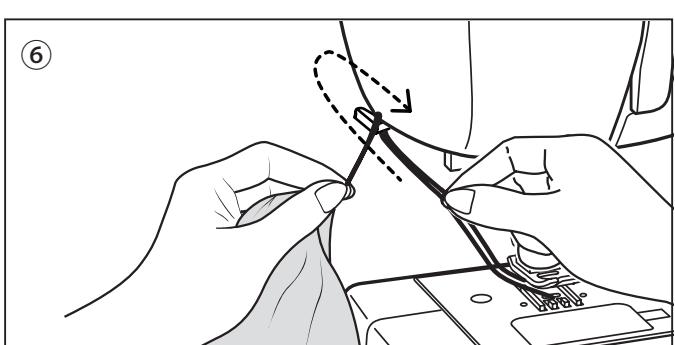
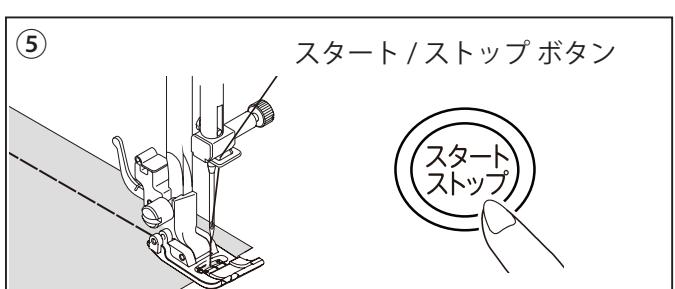
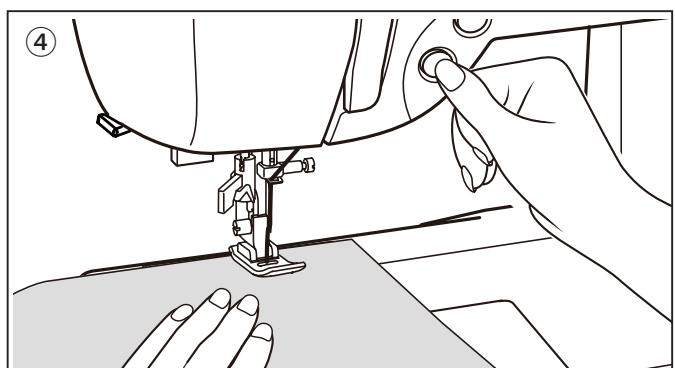
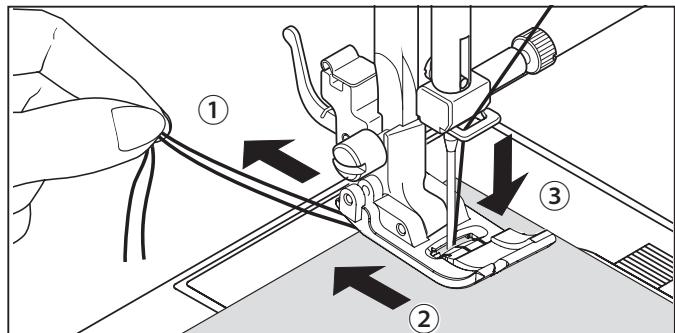
「はやい」スピードをお望みの場合は、スピードコントロールつまみを右に動かしてください。

縫っている間は、布に軽く手を添えておいてください。

お知らせ：

- ・布端を縫う場合は、上糸と下糸を後方へ少し引っ張りながら縫い始めます。
 - ・糸締りが強い場合、上糸調子ダイヤルをやや弱めにしてください。
- ⑤ 布端まで来たら、スタート / ストップボタンをもう一度押してミシンを止めます。

- ⑥ 針と押えを上げ、布地を後ろへ引き出し、糸切りで糸を切ります。
切った糸は、そろえて後ろへ引いておきます。



⚠ 注意

- ・最初のひと針は、必ずプーリーを手で回し、布に針が刺さった状態から操作を始める。
- ・ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、プーリー、天びんなどすべての動いている部品に手を近づけない。指がはさまる、針が刺さるなどのけがの原因となります。
- ・縫うときは布を無理に引っ張ったり、押したりしない。指がはさまる、針が刺さるなどのけがの原因となります。

正しい使いかた

ファスナー付け 01

■ ミシンのセット

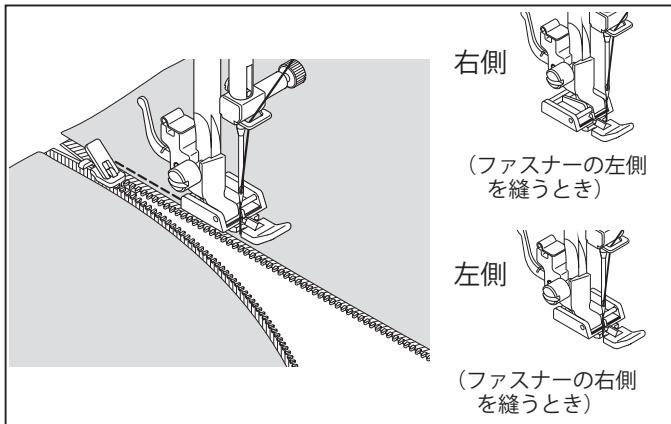
押え「ファスナー押え (I)」

ファスナーの右側を縫うときは、押えホルダーを押えの左側のピンに取り付けて縫います。

左側を縫うときは、押えホルダーを押えの右側のピンに取り付けて縫います。

お知らせ：

- ・ ファスナー付け、パイピングは直線縫いで押え表示は「J」で表示されますが、必ず「I」のファスナー押えを使用してください。



△ 注意

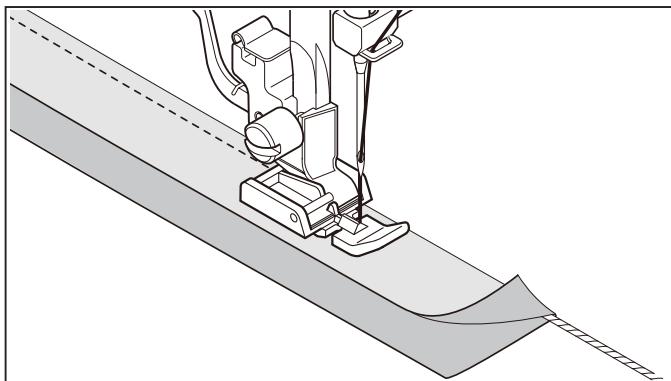
- ・ ファスナー押え使用時は、必ず直線縫いを選択してください。他の模様を選択すると、針が押えに当たって危険です。

パイピング 01

■ ミシンのセット

押え「ファスナー押え (I)」

バイアステープを外表に折るか、バイアステープでコードをくるみ、押えホルダーをファスナー押えの右側に取り付けて図のように縫います。



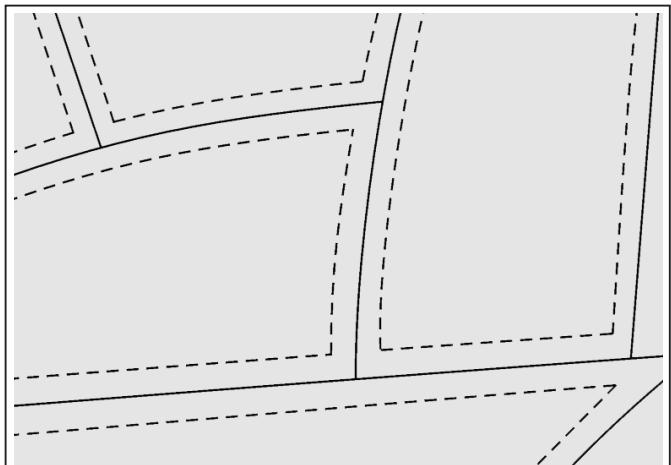
点線キルト縫い 03

■ ミシンのセット

押え「ファスナー押え (I)」

この縫いでは下糸が布表面に引き上げられ、手縫い風の直線縫いができますので、ステッチ縫いやキルト縫いに使えます。

1. 下糸はお好みの色の糸を使います。
2. 上糸は布の色に似た細い糸を使います。
3. 下糸が表面に引っ張り出されるように上糸テンションを少し強くします。
4. 縫い始めます。



お知らせ：

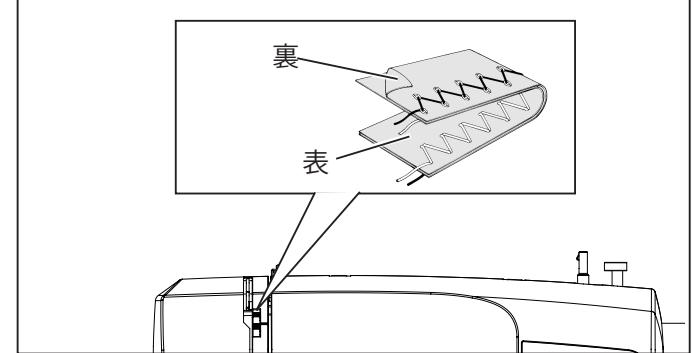
- ・ 使用される布切れで試し縫いをして、最適のテンションと縫い目長さを選択します。

正しい使いかた

ジグザグ縫い 04

- ミシンのセット
押え「標準押え (J)」

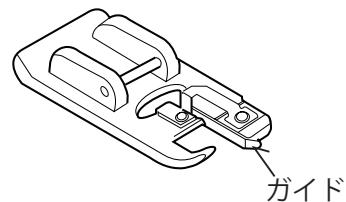
- 裁ち目かがりに使用するほか、布地のはぎ合わせや飾り縫いに利用できます。



裁ち目かがり 04 12 15

裁ち目かがり（縁かがり）は「標準押え (J)」でも縫うことができますが、「端縫い押え」を使用すると縫いやすくなります。

端縫い押え



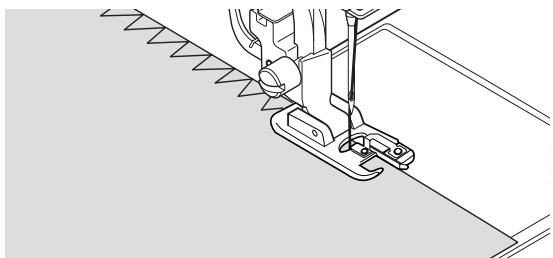
端縫い押えでの縫いかた

- 布端を端縫い押えのガイドにあてて、ジグザグ縫い（ 04）をすることで、裁ち目のほつれを防げます。
 - オーバーロック縫い（ 12）は、地縫いと裁ち目かがりを一度にできます。
- また、伸縮性のあるブラウス地や綿ジャージ、薄い布地の縫い代の仕上げ、小物、手芸品などの飾り縫いに最適です。
- ダブルオーバーロック縫い（ 15）地縫いと裁ち目かがりが一度にできます。リネン、ツイードなどの布地に適しています。

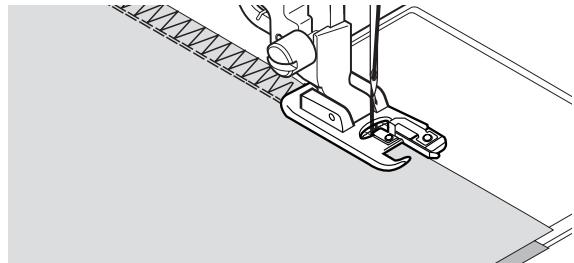
お願い：

端縫い押えを使用するときは、縫う前に、針が押えの中央にある爪に当たらないよう、ふり幅を調整してください。

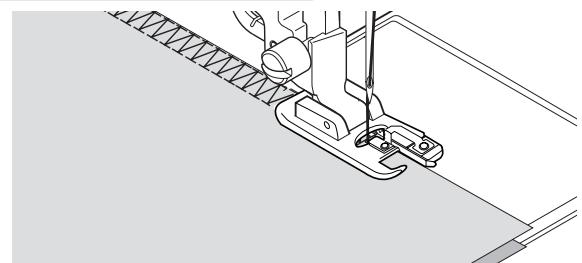
ジグザグ縫い 04



オーバーロック縫い 12



ダブルオーバーロック縫い 15



⚠ 注意

- 端縫い押えは点線ジグザグ縫いには使用しないでください。針が折れたりけがの原因になります。

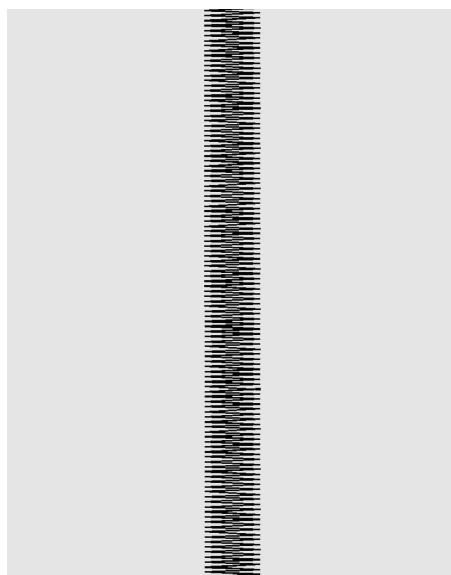
正しい使いかた

サテンステッチ（密着縫い） $\gtrless 04$

縫い目長さを「0.5 mm」ぐらいにセットすると、目のつまつたきれいな縫い目ができます。

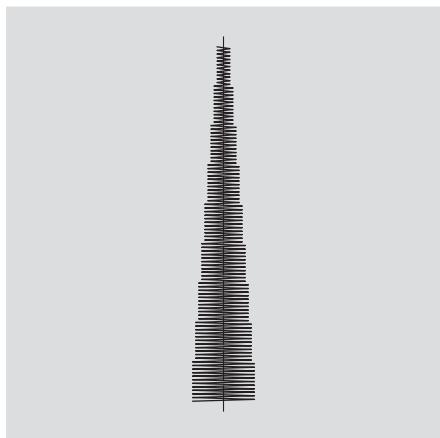
お知らせ：

- 布の種類によっては、送り詰りする場合があります。その場合は縫い目長さを少しあらくしてください。



ふり幅の変化 $\gtrless 04$

縫っている間にジグザグふり幅調節ボタンを押してジグザグふり幅を変化させると、図のように縫い幅を変化させることができます。



正しい使いかた

かくし縫い 05 06 08

■ ミシンのセット

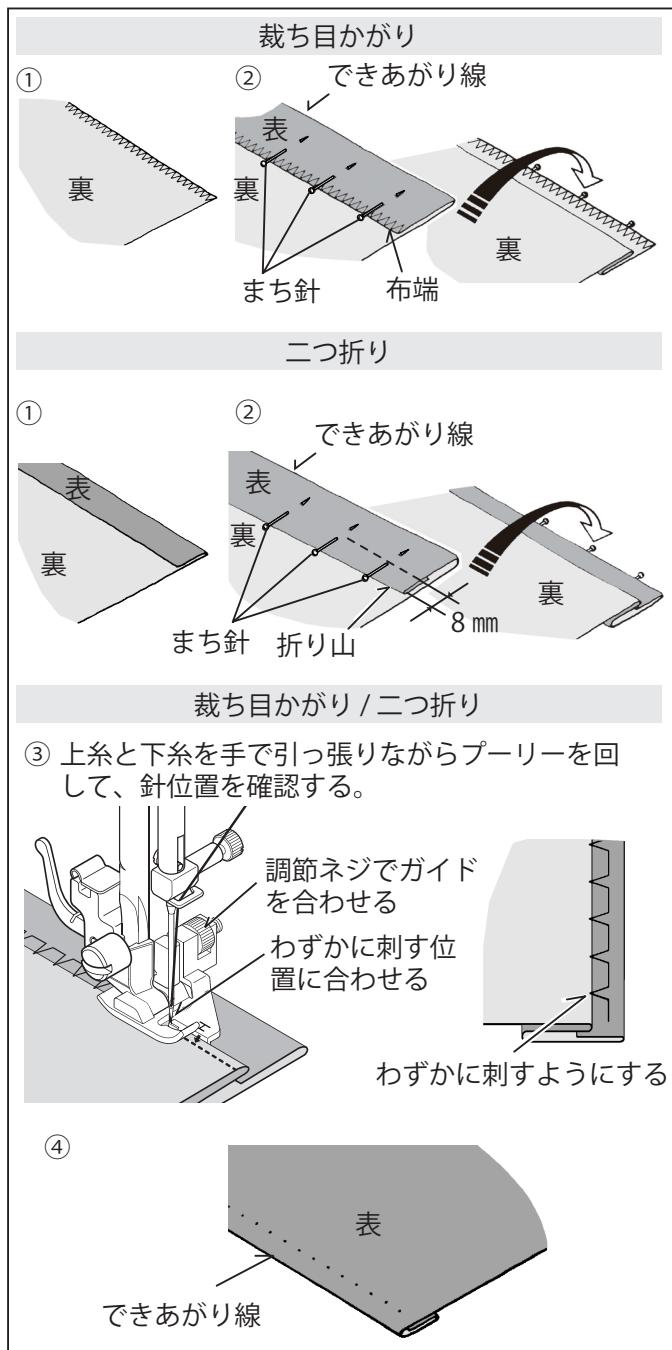
押え「かくし縫い押え (H)」

— 伸縮性の布地に適しています。

— 普通地に適しています。

■ スカートやズボンなどの裾をまつり上げる方法で、布表の縫い目が目立たないように縫うことができます。

- ① 布端を裁ち目かがりするか、二つ折りにします。
- ② できあがり線に沿って布を折り、折り山から約8mm入ったところから裾に向かって、図のようにまち針で留めます。まち針を持って折り返します。
- ③ 上糸と下糸を手で引っ張りながらプーリーを手前に回し、針が左に振れたときに布の折り山をわずかに刺すように布の位置を合わせます。調節ねじを回し、ガイドが折り山に沿うように調整してから縫います。まち針は押えの手前に来たら順に抜いていきます。
※ 針位置を合わせる際、上糸と下糸を手で引っ張りながらプーリーを回さないと、かまの中に糸がからまる場合があります。
- ④ 布を表に開くとできあがりです。



点線ジグザグ縫い 07

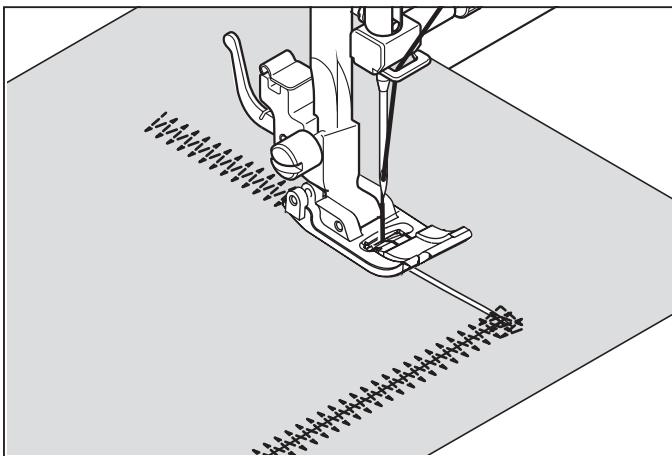
■ ミシンのセット

押え「標準押え (J)」

つくろい縫い

布の裂け目をつくろうには、裂け目を針の下に置き、針が裂け目の両側を拾うように縫います。

裂け目の角は、両側から角の中心に向かって縫います。裂け目の下に布を当てて縫うと丈夫につくろえます。



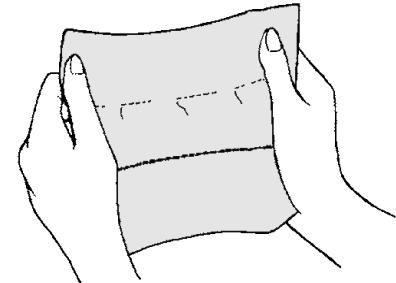
正しい使いかた

スーパー縫い（ストレッチステッチ）

- ミシンのセット
押え「標準押え（J）」

直線伸縮縫い 02

図のように布地を引っ張ると、普通の縫いでは糸が切れますが、伸縮縫いは縫い目が伸び縮みして糸が切れません。

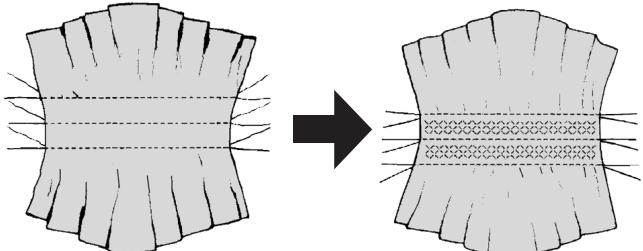


スマッキング縫い 11

1. 上糸調子を弱くして、1 cm 位の間隔を開けて直線縫いをしてください。
2. 下糸だけを引っ張ってギャザーを寄せ、上糸と下糸を結んでギャザーを固定します。
3. 直線縫いの間をスマッキング縫いします。直線縫いの糸をほどきます。

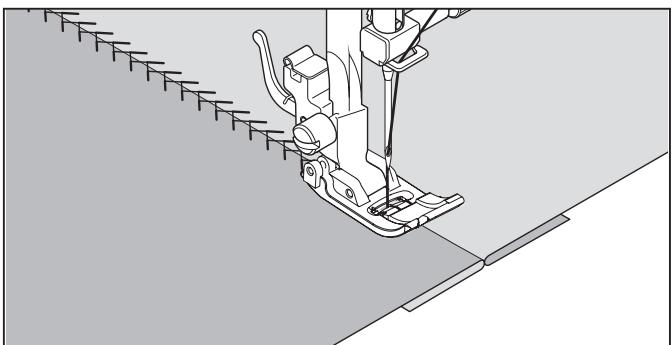


ヒント ヨーク、ベビー服、幼児のドレス、ランジェリー、タック押えに最適です。



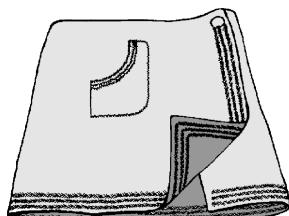
フェザー縫い 10

レースの縫い付け、ニットやトリコットの突き合わせはぎ、ファゴティング、飾り縫いに適しています。



ジグザグ伸縮縫い 14

縫い目に伸縮性があるので、ニットや、ジャージ、トリコットなどの伸縮性のある布地に適しています。



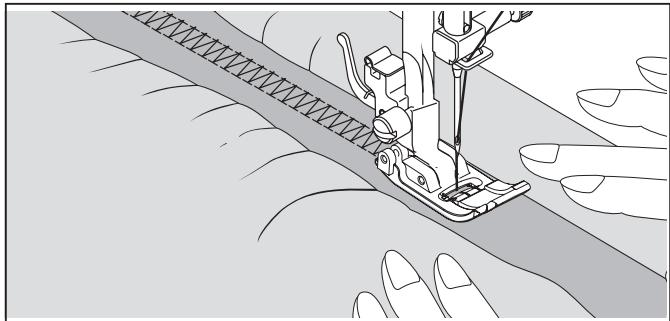
正しい使いかた

ダブルオーバーロック縫い 15

地縫いと裁ち目かぎりが一度にできます。リネン、ツイードなどの布地に適しています。

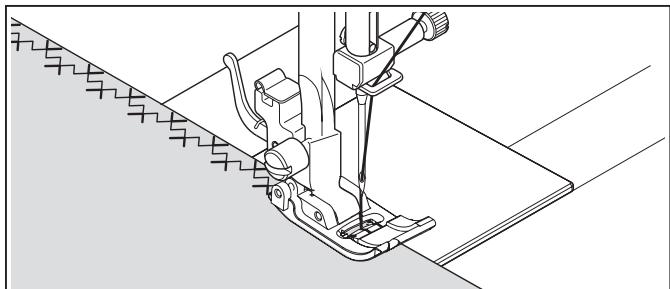


平ゴム・毛糸などを縫い付ける場合もご利用ください。



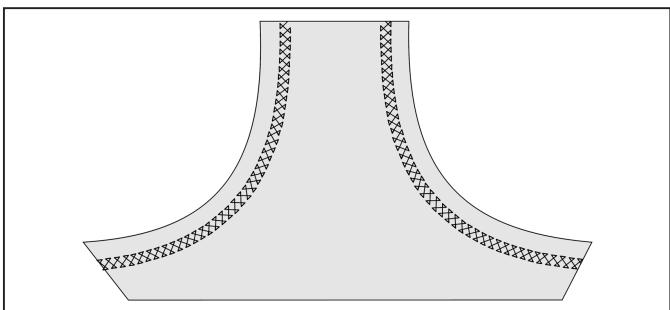
つる草縫い 16 33

伸縮性のある布地の縫いやボーダーの飾りに適しています。



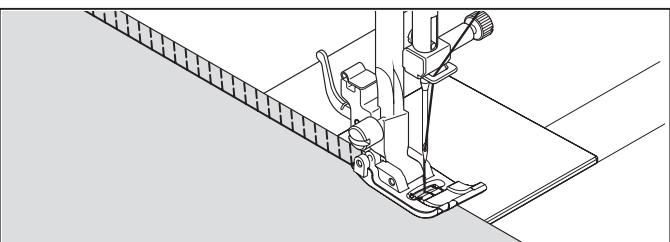
ウィッシュボーン縫い 27

伸縮性のある布地の縫いや飾り縫いに適しています。



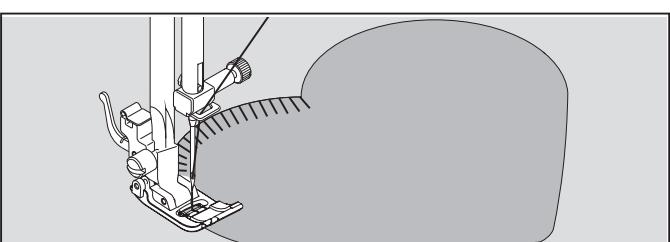
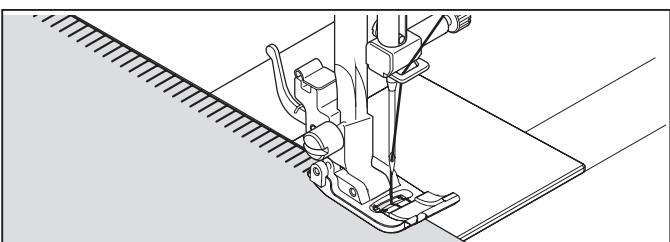
パインリーフ縫い 25 26

縫い目に伸縮性があるので、ニットや、ジャージ、トリコットなどの伸縮性のある布地に適しています。



プランケット縫い 19 20 21 22

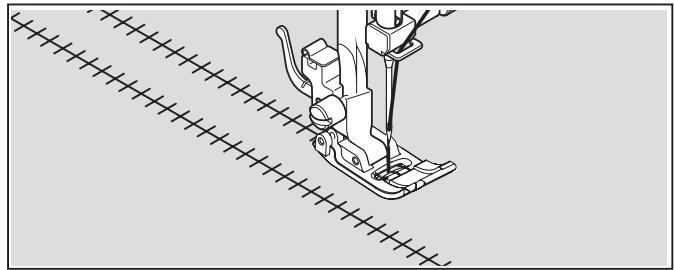
装飾性と実用性を兼ねそなえているので、テーブルクロス、ナプキンなどの縫い代、折り代の始末をするのに適しています。



正しい使いかた

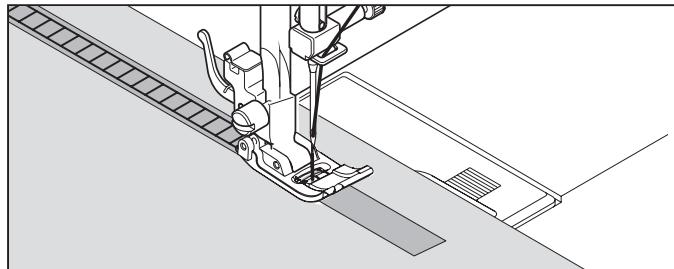
はぎ合わせ縫い 17

レースの縫い付け、ニットやトリコットの突き合わせはぎ、ファゴティング、飾り縫いに適しています。



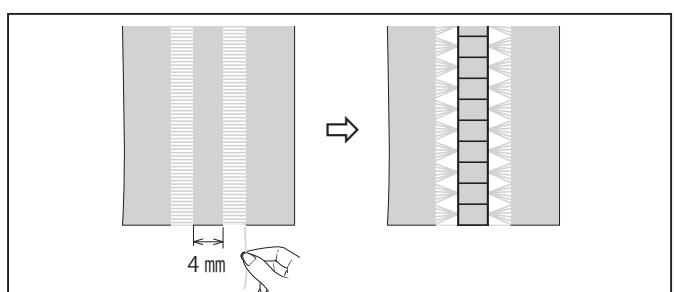
ボックス縫い 18

反対色または類似色の薄いテープを押えの下に置いて縫い付けると、特別の飾り効果が得られます。



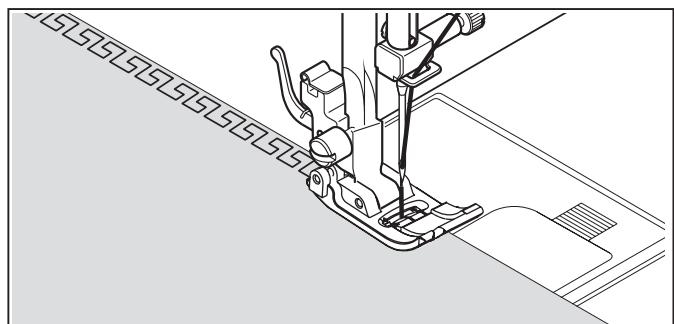
織りのあらい布を使い、図のように約4mmの間隔を置いて布の織り糸を抜き取ります。

布の中心をこのステッチで縫うとドロンワークができるります。



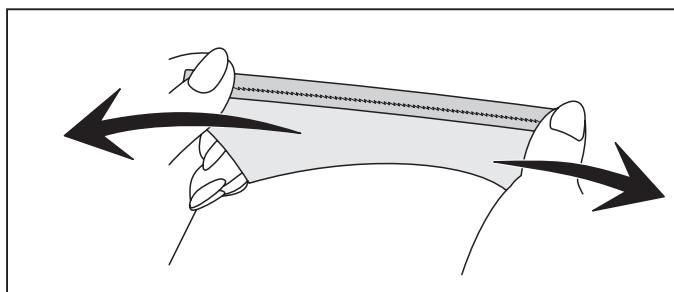
かぎ縫い 36

縁飾りや布端の仕上げに適したパターンです。



伸縮縫い 29

図のように布地を引っ張ると、普通の縫いでは糸が切れますが、伸縮縫いは縫い目が伸び縮みして糸が切れません。



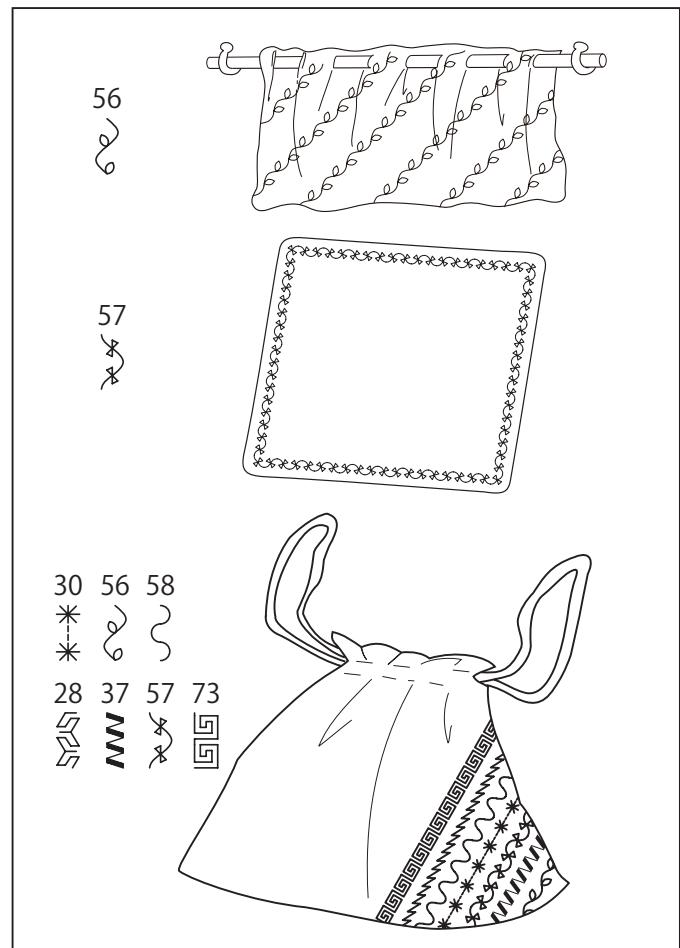
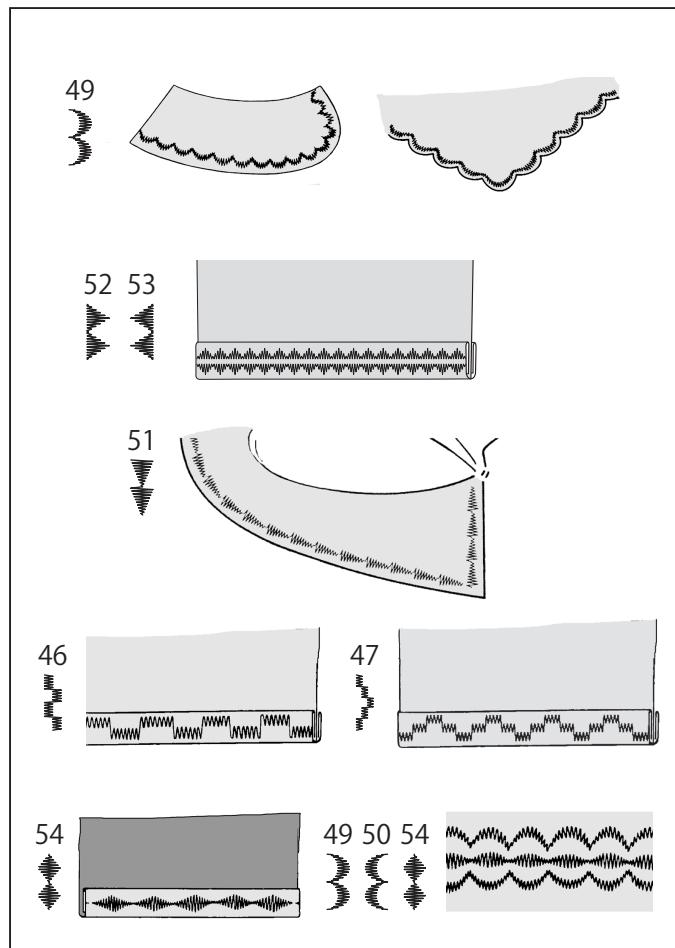
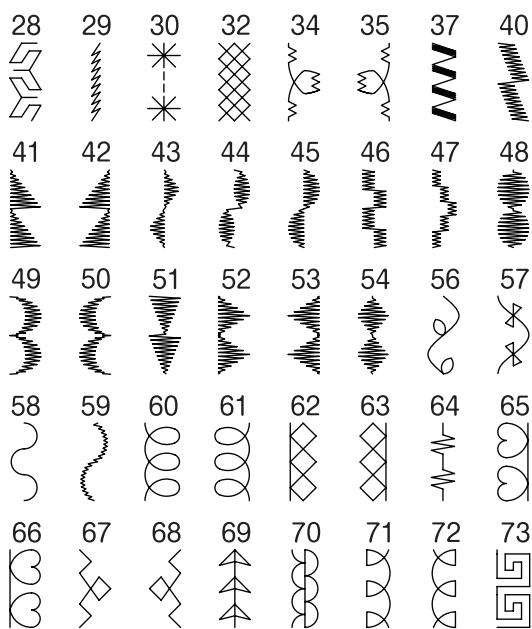
正しい使いかた

飾り縫い

■ ミシンのセット 押え「標準押え（J）」

お知らせ：

- ・ 使用される布切れで試し縫いをされることをおすすめします。
- ・ 縫い途中に糸がなくなることを避けるためにボビンと糸コマに十分な糸があることを確認してから縫い始めてください。



正しい使いかた

ボタン付け ④ 74

■ ミシンのセット

押え「ボタン付け押え (O)」

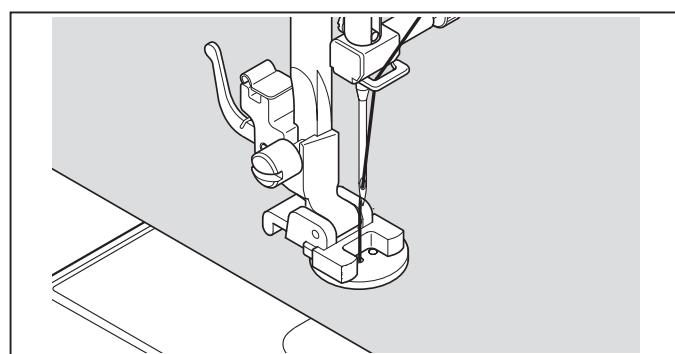
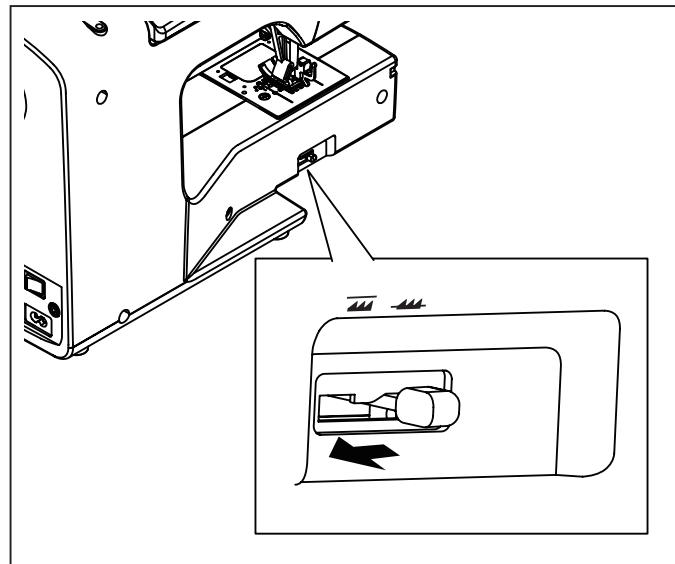
送り歯調節レバー

- 送り歯調節レバーを左側にスライドし、布を送らない状態にします。

お願い：

- 速度は低速に設定してください。

1. 布のボタンを取り付ける位置にボタンを置き、押えを下ろします。
2. プーリーを回し、左右のボタン穴に針が落ちるか確認します。必要ならば幅を微調整します。
3. スタート / ストップボタンを押して 10 針ぐらい縫い、返しぬいボタンを押して止めぬいをします。



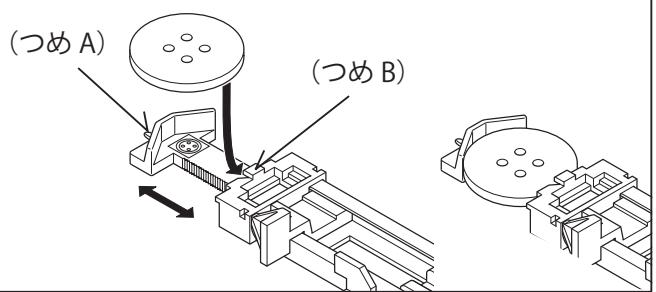
正しい使いかた

ボタンホール（ボタン穴かがり）

- ミシンのセット
押え「ボタンホール押え（B）」

ボタンホール押えの使いかた

1. (つめA) と (つめB) の間にボタンをはさみます。
2. ボタンの大きさに応じたボタンホールができます。



縫い始めのセット・縫いかた

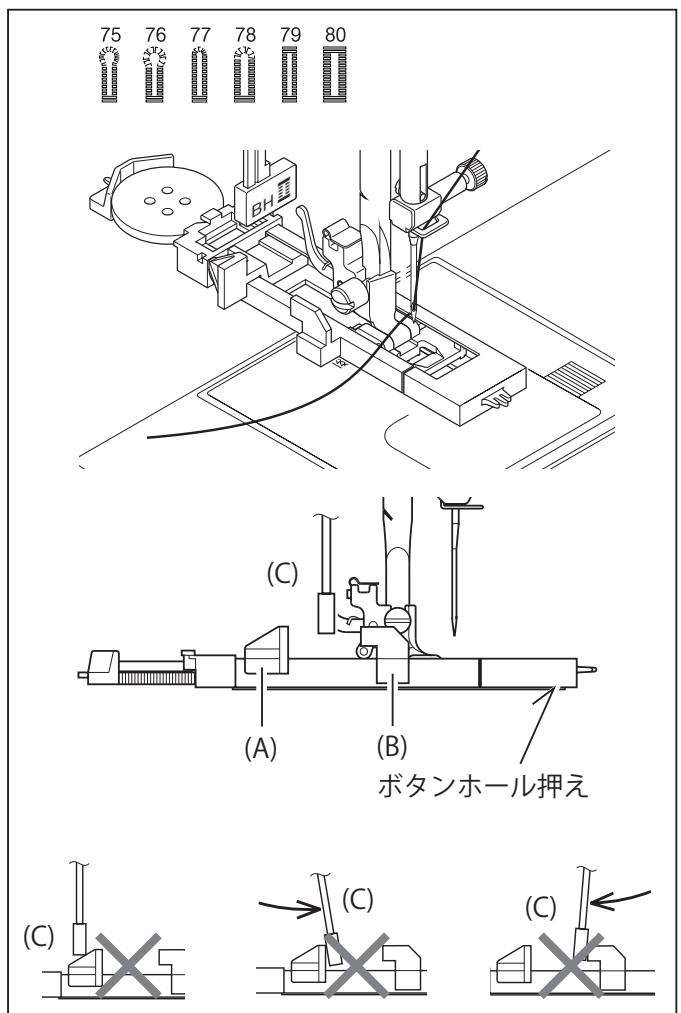
お知らせ：

- ・伸縮性のある布地や薄地で、進みにくい場合は、布地の下に不織布の接着芯を貼ってください。
- ・使用される布切れで試し縫いをされることをおすすめします。

1. 模様選択ボタンで「」のいずれかを選択し、縫いの設定をします。
2. 押え上げレバーを上げて、押えをボタンホール押えに取り替えてください。
3. ボタンホール押えに使用するボタンを取り付けます。
(上記のボタンホール押えの使いかた参照)
4. ストップバー（A）、（B）の間にボタンホールレバー（C）が垂直に下りるようにしてください。

お知らせ：

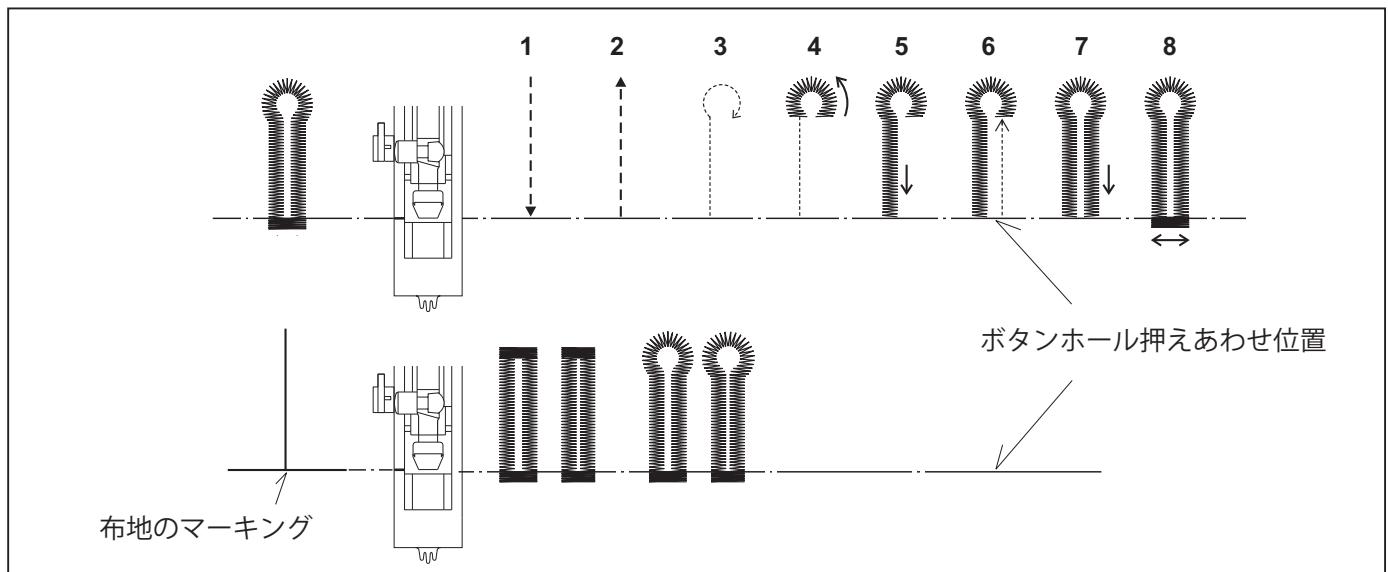
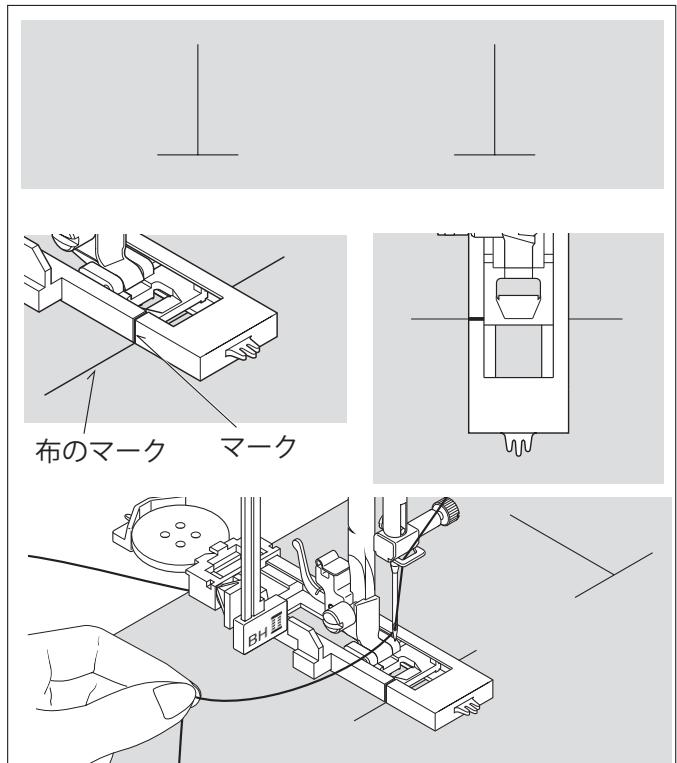
- ・ボタンホールレバー（C）が途中までしか下りていない場合は、ミシンは作動しません。



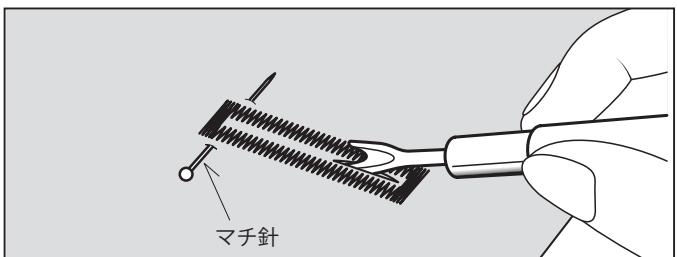
正しい使いかた

5. 布地の穴かがりをする位置にマークを付けます。
6. 布地を押えの下に入れます。下糸は布の下側にあり、後ろへ 10 cm 程引き出しておいてください。
7. 布地のマークとボタンホール押えのマークを合わせて、ボタンホール押えを下ろします。
8. 上糸を持ってスタート / ストップボタンを押し、ミシンをスタートさせます。

■ 下記の順に自動的に縫いあがり、最後に数針止めぬいをして止まります。
(布に印を付けたボタンホールあわせ位置より少し余裕をもって縫いあがりますので、試し縫いをおすすめします。)



9. 縫い終わったらシームリッパーで中央の布地を切り開きます。その際、マチ針を図のように差し、縫い糸を切らないように注意してください。



お手入れのしかた

△ 注意

- お手入れの際、シンナーやベンジンで拭いたりしないでください。変質・破損・塗料はがれの恐れがあります。
- 安全のために必ず電源スイッチを「OFF」にし、電源プラグをコンセントから抜いてください。けがの原因となります。

送り歯とかまの掃除

ボビンケースやかまに糸がからんだ場合、またはボビンケースの位置がずれた場合も、次の順序で行ってください。

① プーリーを手前に回し、針を最上点に上げて、押えと針をはずします。

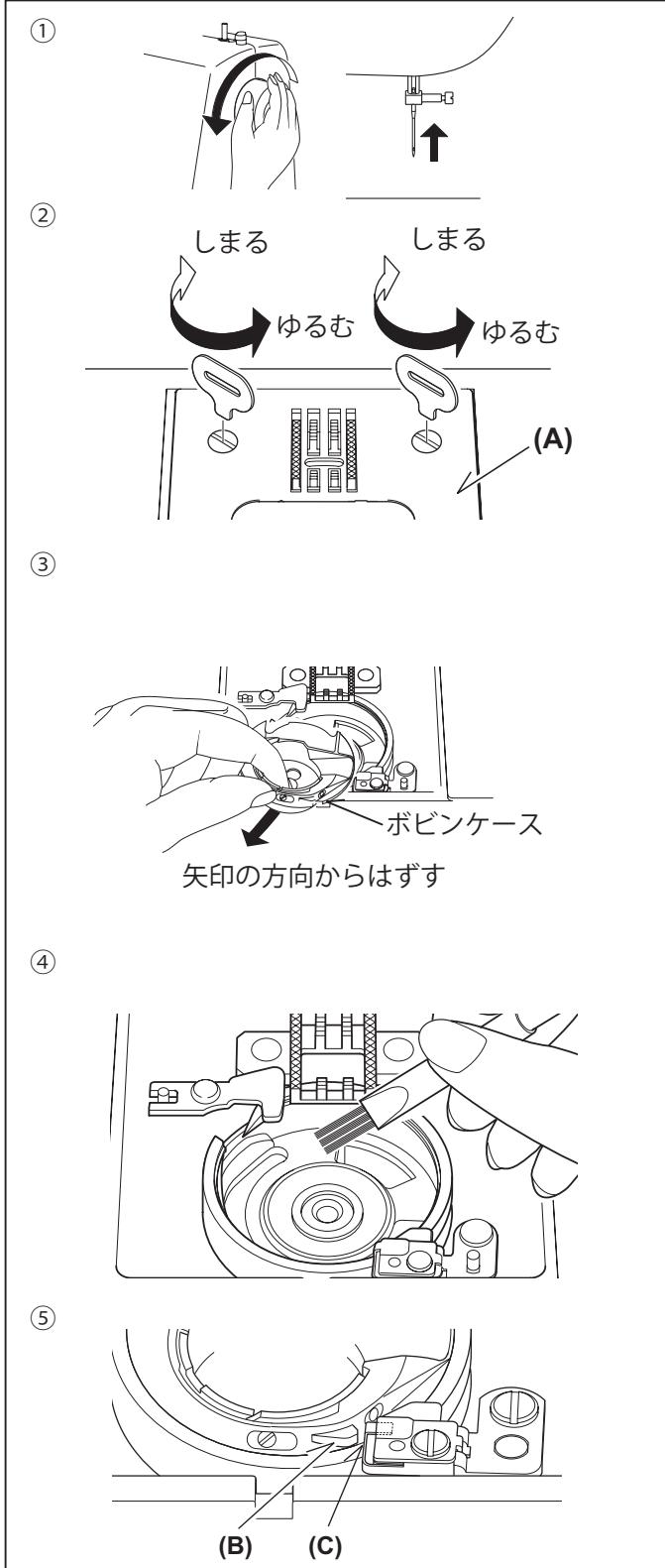
② 付属の針板ドライバーでネジをゆるめて、針板 (A) をはずします。

③ ボビンケースを図のように矢印方向から取りはずします。ボビンケースに付着した糸くずも取り除いておきます。

※ボビンケースを取り付ける際は、取りはずしと同じ方向からはめ込んでください。

④ かま内部、周辺および送り歯の糸くずやほこりをブラシできれいに取り除きます。

⑤ ボビンケースの突起部 (B) とストッパー (C) が接するようにかまに入れます。針板、かまカバーを取り付けます。



保管のしかた

ミシンカバーを本体にかぶせ、直射日光のあたらない湿気の少ない場所で保管してください。

故障かな？と思ったら

こんなときには	原因	対処	参照ページ
ミシンが回らない	下糸巻き軸が右になっている。	下糸巻き軸を左へ押します。	12
	電源コードが正しくセットされていない。	正しくセットし直します。	8
	電源スイッチが「OFF」の位置にある。	電源スイッチを「ON」の位置にします。	8
	ボビンケースが正しい位置にない。	ボビンケースを正しい位置にします。	40
	通常縫いのとき、ボタンホールレバーが上がってない。	ボタンホールレバーを上げます。	23
	ボタンホール縫いのとき、ボタンホールレバーが下がっていない。	ボタンホールレバーを下げます。	23・38
	フットコントローラーを接続した状態でスタート／ストップボタンを押している。	フットコントローラーをはずしてください。	8
	チャイルドロック設定になっている。	チャイルドロックを解除してください。	23
回転が重い音が高い	送り歯やかまに糸くずやごみがたまっている。	糸くずやごみを取り除きます。	40
	針が曲がっている、先がつぶれている。	新しい針と取りかえます。	17
布を送らない	押えを下ろしていない。	押え上げレバーを下ろして、押えを下げます。	9
	厚物縫いの場合		27
	送り歯が下がっている。	送り歯調節レバーを右側にし、送り歯を上げます。	10
針が折れる、針が曲がっている	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	17
	無理に布を引っ張った。	布は軽く案内するだけにしてください。	28
	針が針棒のいちばん奥まで入っていない、差し込む向きが逆になっている。	正しく付け直します。	17
	押えが正しく取り付けられていない。	正しく付け直します。	19
	段縫いの場合		27
	ボビンケースが正しい位置にない。	ボビンケースを正しい位置にします。	40
糸が布と針板の間でだんごになる	縫い始めに上糸と下糸を後ろ側に引き出している。	常に両糸をそろえて押えの下から後ろ側へ 10 cm ほど引き出します。	16
	上糸調子が適切でない。	上糸調子の確認をします。	18
	上糸のかけかたが間違っている。	正しくかけ直します。	14
縫い物にしわがよる	糸調子が強すぎる。	糸調子を弱めます。	18
	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	17
	針が曲がっている、先がつぶれている。	新しい針と取りかえます。	17
	薄物に対して縫い目があらい。	縫い目をこまかくします。	23
	薄物縫いの場合		27
	ボビンが正しくセットされていない。	糸が左巻きになる方向にボビンを入れ、かまのみぞ A・B に下糸をかけます。	13

故障かな？と思ったら

こんなときには	原因	対処	参照ページ
かまに上糸・下糸がからまる	上糸がきちんとかかっていない・糸調子が適切でない。	上糸をかけなおし、糸調子の確認をします。	14
	押えを下ろしていない。	押え上げレバーを下して、押えを下げます。	9
	薄物縫いの場合		27
	針が曲がっている、先がつぶれている。	新しい針と取りかえます。	17
	ボビンケースへの糸の通しかたが間違っている。	正しくセットし直します。	13
	糸くずやごみがかまにたまっている。	糸くずやごみを取り除きます。	40
	ボビンケースに針キズがある。	ボビンケースを取り替えます。	40
	ボビンケースが正しい位置でない。	ボビンケースを正しい位置にします。	40
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱めます。	18
	上糸のかけかたが間違っている。	正しくかけ直します。	14
糸がつる	ボビンが正しくセットされていない。	糸が左巻きになる方向にボビンを入れ、かまのみぞA、Bに下糸をかけます。	13
	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	17
	よじれの起こりやすい糸を使っている。	下図のように針に糸を巻き付けることをおすすめします。	下図参照
	針が曲がっている、先がつぶれている。	新しい針と取りかえます。	17
	針が針棒のいちばん奥まで入っていない、差し込む向きが逆になっている。	正しく付け直します。	17
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱めます。	18
	上糸のかけかたが間違っている。	正しくかけ直します。	14
	送り歯やかまに糸くずやごみがたまっている。	糸くずやごみを取り除きます。	40
縫いにくい布地の場合			27
上糸が切れる	上糸のかけかたが間違っている。	正しくかけ直します。	14
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱めます。	18
	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	17
	針が曲がっている、先がつぶれている。	新しい針と取りかえます。	17
	よじれの起こりやすい糸を使っている。	下図のように針に糸を巻き付けることをおすすめします。	下図参照
	針が針棒のいちばん奥まで入っていない、差し込む向きが逆になっている。	正しく付け直します。	17
下糸が切れる	送り歯やかまに糸くずやごみがたまっている。	糸くずやごみを取り除きます。	40
	ボビンが正しくセットされていない。	糸が左巻きになる方向にボビンを入れ、かまのみぞA・Bに下糸をかけます。	13
液晶表示にエラー表示されている場合			23
このミシンはLEDランプを搭載しています。万一LEDランプが切れた場合は、お客様自身での交換はせず、お買い上げの販売店か販売元までご相談ください。			

市販の糸にはよじれの起こりやすい糸があり、目とび／糸切れなどが発生することがあります。
このような場合、図のように針に糸を巻き付けることをおすすめします。



ご注意： 図とは反対に巻き付けないようにしてください。
糸のよじれがかえって増すこととなります。

仕様

定格消費電力	36 W
定格電圧	AC 100 V 50 / 60 Hz
本体質量	約 5.3 kg (本体のみ)
本体寸法	約 410 (W) × 190 (D) × 310 (H) mm
付属品	ボタンホール押え、ボタン付け押え、ファスナー押え、かくし縫い押え、端縫い押え、ボビン（3個）、ミシン針（14番×3本）、補助糸立て棒、糸コマクッション、ブラシ付きシームリッパー、針板ドライバー、マイナスドライバー（小）、糸コマ押え

※ 本機の仕様および外観については、改良のため予告なく変更することがあります。

愛情点検	★長年ご使用のコンピューターミシンの点検を！ 点検やオーバーホールをご依頼される場合は、保証・無料修理規定とは異なるため、別途料金を頂戴致します。		
	このような症状はありませんか？	<ul style="list-style-type: none">● 電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。● 异常なにおいがしたり煙が出る。● ミシンにさわると電気を感じる。● その他の異常・故障がある。	 ご使用中止 このような症状のときは、故障や事故防止のため、コンセントから電源プラグを抜いて必ず販売店にご相談ください。

アフターサービスについて

1. 保証書

- この取扱説明書には保証書が付いています。
- 保証書はお買い上げの販売店で「販売店名・お買い上げ日」などの記入をご確認の上、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。
- 保証期間はお買い上げ日より1年間です。
- 一般家庭用以外に使用される場合は除きます。

2. 修理を依頼されるときは

- 保証期間中は
商品に保証書を添えてお買い上げの販売店にご持参ください。保証書の記載内容により無料修理いたします。
- 保証期間が過ぎているときは
お買い上げの販売店にご相談ください。修理により使用できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。

3. 補修用性能部品の保有期間

- 補修用性能部品は製造打ち切り後8年保有しています。
- 補修用性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

4. アフターサービスについてご不明の場合

- アフターサービスについてご不明の場合には、お買い上げの販売店か、小泉成器株式会社「修理センター」にお問い合わせください。

お客様の個人情報のお取り扱いについて

お受けしましたお客様の個人情報は当社個人情報保護方針に基づき適切に管理いたします。また、お客様の同意がない限り、業務委託をする場合および法令に基づき必要と判断される場合を除き、第三者への開示は行いません。

<利用目的>

お受けしました個人情報は、商品・サービスに関わるご相談・お問い合わせおよび修理対応のみを目的として使用させて頂きます。

なお、この目的のために小泉成器株式会社および関係会社で上記個人情報を利用することができます。

<業務委託の場合>

上記目的の範囲内で対応業務を委託する場合、委託先に対しては当社と同等の個人情報保護を実施させるとともに適切な管理・監督をいたします。

保証・無料修理規定

1. 取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った正常な使用状態で保証期間内に故障した場合、「無料修理」致します。
2. 保証期間内に故障して無料修理をお受けになる場合には、商品と本書をご持参ご提示の上、お買い上げの販売店にご依頼ください。
3. ご転居、ご贈答品等で本保証書に記入してあるお買い上げの販売店に修理がご依頼できない場合は、取扱説明書の小泉成器株式会社「修理センター」へご相談ください。
4. 保証期間内でも次の場合には有料修理になります。
(イ) 使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷。
(ロ) お買い上げ後の落下等による故障および損傷。
(ハ) 火災、地震、落雷、水害、その他の天災地変、異常電圧による故障および損傷。
(二) 一般家庭以外（例えば業務用の長時間使用、車輛、船舶への搭載）に使用された場合の故障および損傷。
(ホ) 本書のご提示がない場合。
(ヘ) 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えた場合。
(ト) 謾渡、転売、リサイクル店（中古品）、中古販売店、オークション等により入手された場合。
5. 保証期間内でも商品を修理窓口へ送付された場合の送料はお客様の負担となります。
6. 本書は日本国内においてのみ有効です。日本国外からの修理依頼や補修用部品・消耗部品の発送依頼には対応しておりません。
Effective only in Japan. We do not offer repair service or dispatch maintenance parts or consumables internationally.
7. 本書は再発行致しませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

- ※ この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によって保証書を発行している者（保証責任者）、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理等についてご不明の場合は、お買い上げの販売店、または取扱説明書の小泉成器株式会社「修理センター」にお問い合わせください。
- ※ 保証期間経過後の修理について詳しくは取扱説明書の「アフターサービスについて」をご覧ください。

コンピューターミシン

保証書 持込修理

本書は、本書記載内容（裏面記載）で無料修理を行うことをお約束するものです。
お買い上げの日から下記期間中故障が発生した場合は、本書をご提示の上、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

型 番	KJM-3301	
お買い上げ年月日	年 月 日	
無料修理 保証期間	対象部分	期間（お買い上げ日より）
	本 体	1 年
お客様	お名前	様
	ご住所	〒 TEL
販売店	店名・住所・電話	

見本

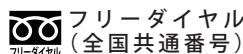
★販売店の皆様へのお願い 必ず全項目をご記入、ご捺印の上、お客様にお渡しください。
小泉成器株式会社 本社 〒 541-0051 大阪市中央区備後町3丁目3番7号 TEL.06(6262)3561

お客様相談窓口

この商品に関するご意見・ご質問については下記へお寄せください。

ご意見・ご質問について

ジャガーミシン サポートセンター

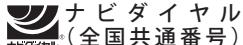


0120 (55) 1628

■ IP 電話などからご利用いただけない場合
〒 541-0051 大阪市中央区備後町3丁目3番7号 TEL. 06 (6262) 3561 FAX. 06 (6268) 1432

修理に関するお問い合わせ

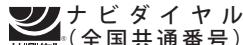
東日本修理センター



0570 (05) 8888

■ IP 電話などからご利用いただけない場合
〒 344-0127 埼玉県春日部市水角 1190 TEL. 048 (718) 3340 FAX. 048 (718) 3350

西日本修理センター

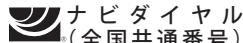


0570 (05) 8888

■ IP 電話などからご利用いただけない場合
〒 559-0033 大阪市住之江区南港中1丁目3番98号 TEL. 06 (6613) 3145 FAX. 06 (6613) 3196

部品に関するお問い合わせ

部品センター



0570 (00) 3211

■ IP 電話などからご利用いただけない場合
〒 559-0033 大阪市住之江区南港中1丁目3番98号 TEL. 06 (6613) 3211 FAX. 06 (6613) 3299

小泉成器株式会社

〒 541-0051 大阪市中央区備後町3丁目3番7号
TEL. 06 (6262) 3561 FAX. 06 (6268) 1432

受付時間：平日 9:00 ~ 17:00
(土・日・祝日・夏期休暇・年末年始を除く)

2023年7月現在（所在地、電話番号については変更がある場合がありますので、その節はご容赦願います）

★ 3H